基本計画書

	基	}	本		i	 	画	
事	項		記		入		欄	備 考
計	画の区分	大学の収容	定員に係	る学則変	更			
フ ∌⊓.	リ ガ ナ 置 者	ガッコウホウジン 学校法人		/				
設フ	置 者 リ ガ ナ	シラウメカ゛クエンタ゛						
大		白梅学園大						
大	学本部の位置	東京都小平	市1丁目	330番地				
大	学 の 目 的	神を建学の理 本学はこの建	想としてい 学の理想に	いる。 こもとづき	き、日本国憲法	および教育基本	るヒューマニズムの精 本法の精神の実現につ とを目的とする。	
新	設学部等の目的	が高度とされるのでは、からのでは、からのでは、からのためでは、からのためでは、からのためでは、からのためでは、からのを発展を発展を発展を発展がある。	ている社会 理解ので 理解心を で を で 教の で 教 の に 子 ど 組 し て と に す に き で れ り れ り れ り れ り れ り し く し く し く し く と う し く う し く う し く う し う し く う と う し う し う と う と う と う と う と う と う と	会的大学を表示である。	の中で、でない。 からだ「動性」 でいてでいるでは、 でいてでいるでは、 でいているでいなが、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでいなが、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでは、 でいているでいなでは、 でいているでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなでは、 でいていなで	、心理学科では、 護者をも含めた 「変専門性を備」 「・特別支援教 ・職や技術を体行 を を いたともも いたともが	するための知識・技術 生涯にわたる人間の た家族や、保育・幼児 た家族や、保教育学社 たた人材を、はおいて、 (青)の領域において、 時した人材を輩出した の発達や心理の再門性 ・発達臨床学科の変更 置し、収容定員を変更	
	新設学部等の名称	修業 入学 年限 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所 在 地	
	子ども学部 [The department of Child Studies]	年		人	1847.7	年月第年次		
	子ども学科 [Division of Child Studies]	4 12 (135)			学士 (子ども学)	平成17年4月 1年次	東京都小平市小川町1 丁目830番地	
新設学習	発達臨床学科 [Division of Developmental and Clinical Psychology]	4 (50)	0 0 (10)		学士 (発達臨床 学)	平成21年4月 1年次	同上	
部等の概要	家族・地域支援学科 [Division of Family and community Support]	4 4	3年次 2 (10)		学士 (子ども学)	平成22年4月 1年次	同上	
	子ども心理学科 [Division of Child Psychology]	4 (0)	3年次 2 (0)		学士 (子ども学)	令和6年4月 1年次	同上	※令和5年4月設置届出予定
	教育学科 [Division of Education]	4 5 (0)	(0)	204 (0)	学士 (教育学)	令和6年4月 1年次	同上	※令和5年4月設置届出予定
	計	25 (225)		1024 (960)				
	設置者内における変更状況 定員の移行,名称の変更等)	教育学科 (3年次編入・ ※令和床学科 (3年か編年人・ ※3年か編入 (3年次編入・ (3年次編入・ ※3年次編入・ ※3年次編入・	学定員) 1月 田 1月 田 1月 田 1月 田 1月 日 1日 田 1月 日 1日 田 1月 日 1日 日	(50) (2) (△50) 廃止) (∠ 序止 和8年4月≅ (△ 定員減〕 和8年4月。	△10) 学生募集停止) 15) (△4) より定員減 学定員)〔定員湞	咸〕(△8)		

			白梅	事学園大学大	学院								
			3	子ども学研究 子ども学研究	科子ども学				$(\triangle 10)$ $(\triangle 5)$				
				b 学園短期大 R 育科〔定員		(△15)							
	41	T=11 2447 1/2 1 1 14			開設す	る授業科	目の総数			-	ケ米亜(小)	H /	
教育課程	剃	f設学部等の名称 		講義	演習		実験・実習		計		卒業要件!		
WK III				一科目	_	-科目	一 科		一科目			一単位	
		学 部 等	の	名 称		教授	准教授	専任教 講師	教員等 助教	計	助手	兼 任 教員等	
教	新	子ども学部 子と	: も学	———— 科		7人 (7)	5人 (5)	2人(2)	0人(0)	14	人 0	人 65人	
員	11/1		€・地	域支援学科		4人 (4)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	(8)		人 52人 (34)	
組	設	子ども学部 子と	きも心理	理学科		6人 (6)	2人 (2)	0人 (0)				人 54人 (54)	
(cht)		子ども学部 教育	下学科			4人 (5)	6人 (6)	2人 (1)	0人(0)	12	人 0	人 49人 (50)	
織	分		計			21 (22)	17 (17)	4 (3)	1 (1)	43 (43)	0	(-)	
の	既	なし				()	()	()	()	()	()	()	
概	設					()	()	()	()	()	()	()	
要	分		計			()	()	()	()	()	()	()	
		合		計		21 (22)	17 (17)	4 (3)	1 (1)	43 (43)	_ ` ′	- (-)	
教		職		重		専	任 29	人	兼 任	Y		35 人	
員以		事 務		職	<u>員</u>	((29)		(6)		((35)	
外の		技 術		職	員		(0)		(0)			(0) 5	
職員		図 書 館	専	門職	員		(3)		(2)			(5)	
の概		そ の 他	の	職	員		(0)		(0)			(0)	
要			計	T		((32)	- 11-	(8)	.	((40) (40)	
校		区 分		専	用	共	用	学	用する他 校等の専			計	
		校舎敷地			m²		14, 907	_		m ^r		14, 907 m ²	白梅学園短期大学
地		運 動 場 用 地 小 計			m² m²		1, 770 16, 677			m ^r m²			(収容定員160 人、必要面積 1,600㎡)と共用
等		その他			m²			m²		m²		m²	1,000m/ C 54/11
``		合 計			m²		16, 677		H) = 11	m²		16, 677 m²	
		ti: A		専	用	共	用	学	用する他 校等の専			計	白梅学園短期大学
		校舎		· .	721. 96 m²	1	3, 701. 23			25 m²	1	6, 681. 44 m²	(収容定員160 人、必要面積
-		講義室		演習	- m²) 室	実験	- m² 注習室		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	m²) 施設	語学	- m²) 学習施設	2,350㎡)と共用
教皇	室等	ших	19室		· 二 12室		30	室		2室		0室	
-				新設学部	 等の名称	;	(補))人) 室	(補助職数	战員 0人)		
専	任	教員研究	室									室	
57	新記	設学部等の名称	[5]	図書 ち外国書〕	[うちタ	雑誌 外国書〕	電子ジャ		視聴覚資			標本	大学全体
図書			183. 19	6 (3, 787)	170	種 [16]	〔うちタ 14〔		1, 686	点	点 36, 146	点 27	図書費には電子ジャーナル・
· 設	大学	全体		126 [3, 787])		(16)	(14 ((1686)		36146)	(27)	データベースの 整備費(運用コ
備		計		26 [3, 787]	170		14 (1, 686		36146	27	スト含む) を含 む。
			(183, 1	126 [3, 787])	(170	[16])	(14 [14〕)	(1686)	(36146)	(27)	

		lovi ±	3- &\d-2				面積			閲り	覧座席数		収	納可	能	冊 数	
		図書	計問					954. 91	m²			100				142, 556	
		体言	予 台				面積				体育館以	人外のスプ	ポーツ施	設の概	要		
		PT F	141					1, 179. 45							_		
				区分	Ì	ŀ	開設前年度	第1年	欠 第2	年次	第3年	次 第4	年次	第5年	欠	第6年次	
		経費	教員1/	人当り研	开究費	學等		540 千		千円	540 千		千円 -	- 千	円	- 千円	
経費		の見	共 同	研究				5,000 千						- 千	·円	- 千円	大学全体 図書費には電子
見積及び		積り	図書	購	入		28,680千円								·円	- 千円	ジャーナル・デー
持方	法		設備	購	入	費	2,000千円	2,000千	円 2,00	0千円	2,000千	円 2,00	0千円 -	- 千	円	- 千円	タベースの整備費 (運用コスト含
の概	要	学	生1人当			第1	年次	第2年次	第	3 年次	第	4年次	第5年	年次	角	第6年次	む)を含む。
			納付金			1, 3	895千円	1,145千	円 1,	145千	円 1,	145千円	-	一千円		一千円	
		学	生納付金	金以外	-の維	辪力	が法の概要	私立力	て学経常	費補助	金、寄付	金、手数	対収入し	による。	,		
	大	学	の	名	称		学園大学										
	学	部	等の	名	称	修業年限		編入学 定 員	収容 定員		位又 称号	定 員超過率	開設 年度	戸	沂 7	在 地	
	Z .	ども学	·立I7			左	手 人	年次 人	人			倍 1.00					
既		子ども				4	135	3年次 10	560	学士 (子ど	* 亭/		平成17年			平市小川	
設大	٤	発達臨	床学科			4	50	3年次	220	学士		0. 95	平成21年		1 ⊨	1000番地	
学等								10			臨床学)						
の	3	家族・	地域支	援学科	ł	4	40	3年次 10	180	学士 (子ど	も学)	0.89	平成22年				
状況			ども学 学専攻	研究科	ŀ												
		修士	:課程			2	15	-	30	修士 (子ど	む 学)	0.66	平成21年	Ξ			
		博士	課程			3	7	_	21	博士		0.66	平成22年	5			
										(子ど	も学)						
既	大	学	の	名	称	白梅	学園短期大	学									
設大	学	部	等の	名	称	修業 年限		編入学 定 員	収容 定員		位又 称号	定 員超過率	開設 年度	Ē	斤 7	在 地	
学等	,	4					手 2 95	年次 -人	人 190	短期力	六学学士	倍 0.94	昭和32	東京都	部/小	平市小川	
の状	保ī	育科						·		(保育	育学)		年	2 1 22 4 2 6		830番地	
況																	
	附。	属施認	との概要			的 置年。	:白梅学園 :幼児の教 月:昭和25 等:土地3,	育・保育 年3月									
(注)																	

- 織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとすること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合 は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、
- 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 6 空欄には、「一」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人白梅学園 組織の移行表

令和5年度

 令和6年度

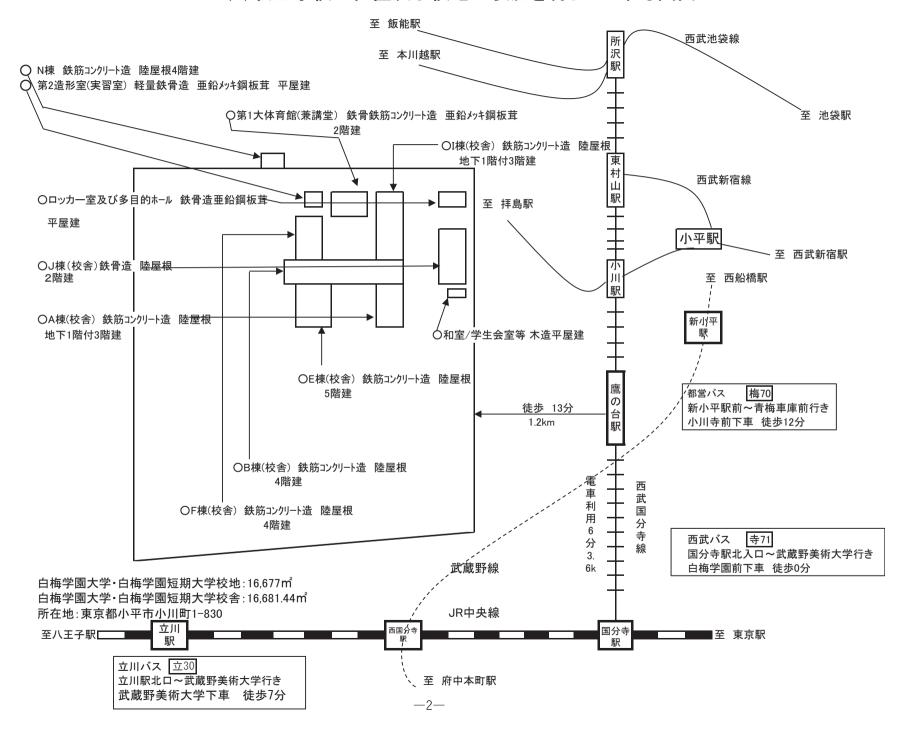
 入学
 編入 収容

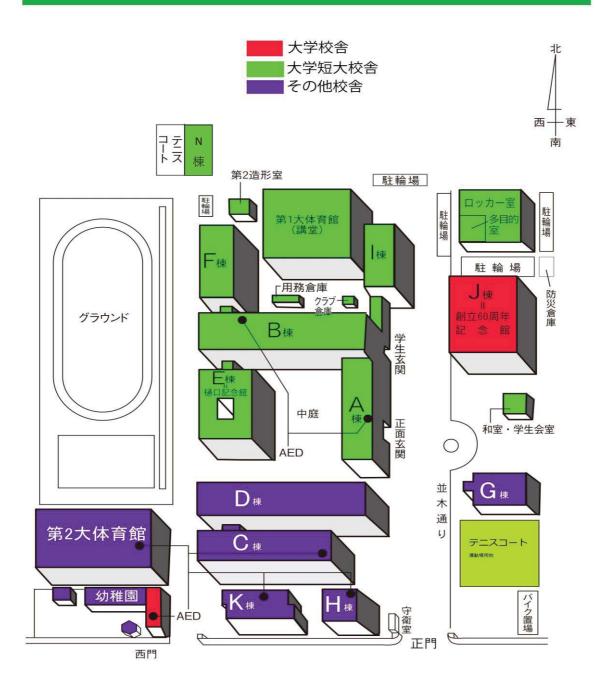
	/\	/lymi / \	1V.D.
	定員	学定	定員
白梅学園大学	全	て3年次	
子ども学部			
子ども学科	135	10	560
発達臨床学科	50	10	220
家族・地域支援学科	40	10	180
	225	30	960
	225	30	300
白梅学園大学大学院			
子ども学研究科			
子ども学専攻(M)	15	_	30
子ども学専攻(D)	7	_	21
10147	<u> </u>		
	22		51
白梅学園短期大学			
保育科	95	_	190
	95	_	190

7110千皮		
	入学	編入 収容
	定員	学定 定員
白梅学園大学		全て3年次
子ども学部		
子ども学科	<u>120</u>	6 492 定員変更 (△15、編入学△4)
発達臨床学科	<u>0</u>	<u>0</u> 令和6年4月学生募集停止
家族・地域支援学科	40	<u>2</u> 164 定員変更(編入学△8)
<u>子ども心理学科</u>	<u>40</u>	<u>2</u> <u>164</u> 学科の設置(届出)
教育学科	<u>50</u>	<u>2</u> <u>204</u> 学科の設置(届出)
	250	<u>12</u> <u>1024</u>
白梅学園大学大学院		
子ども学研究科		
子ども学専攻(M)	<u>5</u>	- <u>10</u> 定員変更(△10)
子ども学専攻(D)	<u>2</u>	- <u>6</u> 定員変更 (△5)
	<u>7</u>	<u> </u>
白梅学園短期大学		
保育科	<u>80</u>	- <u>160</u> 定員変更(△15)
	<u>80</u>	<u> </u>



(2)私立学校の位置及び校地の状況を明らかにする図面





白梅学園大学学則【案】

令 和 6 年 4 月 1 日

学校法人 白梅学園

白梅学園大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 白梅学園大学(以下、「本学」という。)は、人間尊重・ヒューマニズムの建学の精神を基に、教育基本法に則って教育研究に従事し、人類の幸福、文化の向上及び社会の発展に寄与する研究成果ならびに優れた人材を生み出すことを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、建学の理念・目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するとともに、積極的に情報を提供する。

- 2 前項の点検、評価及び公表の実施に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 第1項の点検及び評価の結果について本学の教職員以外の者による検証を行う。 (教育内容・方法等の改善)

第2条の2 本学は授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を 実施する。

2 前項の委員会については、別に定める。

第2条の3 本学は東京都小平市小川町1丁目830番地に置く。

第2節 組織

(学部等)

第3条 本学に子ども学部を置き、学科ならびにその学生定員は、次のとおりとする。

学部名	<u>学科名</u>	<u>入学定員</u>	編入学定員	<u>収容定員</u>
子ども学部	子ども学科	<u>120 名</u>	3年次 6名	<u>492 名</u>
	家族・地域支援学科	<u>40 名</u>	3年次 2名	<u>164 名</u>
	子ども心理学科	<u>40 名</u>	3年次 2名	<u>164 名</u>
	教育学科	<u>50 名</u>	3年次 2名	<u>204 名</u>

2 家族・地域支援学科の介護福祉士学校としての学級数は「家族・地域支援学科学級数 に関する細則」による。

第3条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院学則は別に定める。

(図書館)

第4条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 教職員組織

(教職員組織)

第5条 本学に、学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員を置く。

- 2 学長が必要と認めた場合、副学長を置くことができる。副学長は学長を補佐する。
- 3 教職員組織に関し必要な事項は、別に定める。
- 第5条の2 本学に教務部及び学生部を置く。
- 2 教務部は教務に関し必要な事項をつかさどり、学生部は学生生活及び就職・進学に関する事項をつかさどる。

第4節 教授会

(教授会)

第6条 本学の学部に、教授会を置く。

(教授会の構成)

第7条 教授会は、教授、准教授、講師、助教その他学部長が必要と認める者をもって組織する。

(教授会の招集等)

- 第8条 学部長は、教授会を招集しその議長となる。ただし、学部長に事故あるときは、 あらかじめ学部長が指名した教授が議長となる。
- 2 学部長は、教授会の構成員の3分の1以上から付議すべき事項を示し要求があった場合には、要求のあった日から10日以内に教授会を招集しなければならない。

(教授会の成立要件)

第9条 教授会は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。 (審議事項)

- 第10条 教授会は学長が次の事項について決定するにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3)前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が必要と定めた事項
- 2 教授会は前項に規定するもののほか教育研究に関する次の事項について審議し、及び学長並びに学部長の求めに応じ意見を述べることができる。
 - (1) 学則及び諸規程の改定に関する事項
 - (2) 学生の退学、転学、休学、賞罰その他身分に関する事項
 - (3) 教員の人事に関する事項
 - (4) 教育課程に関する事項
 - (5) その他教育研究に関する事項で学長及び学部長が必要と認めた事項

(運営細則への委任)

第11条 この節に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第13条 学年を前期、後期の2学期に分け、それぞれの始期、終期は別に定める。 (休業日) 第14条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日
- (3) 開学記念日 4月27日
- 2 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。
- 3 前2項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し授業 を行うことができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第15条 本学の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第16条 学生は、8年(再入学、編入学又は転入学の場合は、それぞれの規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数)を超えて在学することはできない。

第2節 入学、再入学、転学科、編入学及び転入学

(入学の時期)

第17条 入学の時期は、毎学年の始めとする。ただし、再入学、編入学及び転入学の場合は、学期の始めとすることがある。

(入学資格)

- 第18条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - (2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 - (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教 育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者 (旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)
 - (7) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学志願の手続き)

第19条 本学に入学を志願する者は、本学所定の入学願書に入学検定料を添えて、本学が 指定する期日までに、学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第20条 入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第21条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、本学の指定する期日までに 連帯保証人連署による誓約書を添えて、所定の入学手続きをとらなければならない。

2 学長は、前項の入学の手続きを完了した者に、入学を許可する。

(連帯保証人)

第22条 前条の連帯保証人は、学生の父母又はこれに代わる者で、保証対象の学生が本学に対し、学費等の未納及び損害賠償義務その他の債務を負うに至った場合、当該学生と連帯して責任を負うこととし、極度額は4,500,000円とする。

2 連帯保証人を変更したとき、又は連帯保証人が転居したときは、直ちに届け出なければならない。

(再入学)

第23条 願いにより本学を退学した者又は第42条の規定により除籍された者が、退学又は除籍後2年以内に再入学を希望するときは、選考のうえ、入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目、単位数の取り扱い及び在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。
- 3 再入学の場合の入学検定料及びその他の必要な手続きは、別に定める。 (転学科)

第24条 本学入学後、他の学科へ転学科を希望する者があるときは、審査のうえ、許可することがある。

2 前項に関する必要な事項は、別に定める。

(編入学及び転入学)

第25条 本学に、編入学及び転入学を希望する者については、選考のうえ、入学を許可することがある。

- 2 前項により入学できる者の資格、既に履修した授業科目、単位数の取り扱い及び在学すべき年数については、別に定める。
- 3 編入学及び転入学の場合の入学検定料及びその他の必要な手続きは、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

(教育課程)

第26条 開設する授業科目及びその単位数は別表1に定めるところによる。

- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 前項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(単位と授業時間)

第27条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を もって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については15時間から30時間までの範囲でカリキュラム表に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲でカリキュラム 表に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

(履修の方法)

第28条 本学則に定めるもののほか、本学において開設する授業科目の履修方法については、学部履修規程に定める。

(履修すべき科目の登録)

第29条 学生は、毎学年度の当初に当該学年度において履修すべき授業科目を登録しなければならない。

2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修すること又は単位を修得することはできない。

(他学科の授業科目の履修)

第30条 学生は、学部履修規程の定めに基づき、他学科の授業科目を履修することができる。

(他の大学等又は短期大学における授業科目の履修等)

第31条 本学が、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で教授会の議を経て、本学において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合等に準用する。 (大学以外の教育施設における学修)

第32条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項及び第2項と合わせて 60 単位を超えないものとする。 (入学前における既修得単位の認定)

第33条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修により修得した単位を含む。)を、教授会の議を経て、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の単位数は、編入学又は転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第31条第1項及び第2項ならびに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(試験等)

第34条 履修した授業科目の学修の成果は、試験、論文又は研究報告、その他これらに準ずる方法(以下「試験等」という。)により評価する。

- 2 試験等の実施は、原則として授業時間内に行うものとする。
- 3 卒業論文等の授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価する。 (学修の評価)

第 35 条 学修の評価は、上位より S (100 点~90 点), A (89 点~80 点), B (79 点~70 点), C (69 点~60 点), D (59 点以下)をもって表示し、C以上を合格とする。 (単位の授与)

第36条 授業科目を履修し、合格の評価が与えられた者には、所定の単位を授与する。

2 授業科目の単位修得に必要な出席時数については「単位修得に必要な出席時数に関する細則」による。

第4節 休学、転学、留学、退学及び除籍

(休学)

- 第37条 傷病その他やむを得ない事由で2か月以上修学できない者は、連帯保証人連署の うえ学長に休学を願い出て、その許可を得なければならない。
- 2 前項の休学が傷病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。
- 3 学長は、第1項の規定にかかわらず、修学が不適当と認められる者に対し、休学を命ずることができる。
- 4 休学の期間は、1学期又は1年とし、1年を超えることはできない。ただし、特別の理由があると認められた者にあっては、引き続きさらに1年まで延長することができる。
- 5 休学の期間は通算して4年を超えることができない。
- 6 休学の期間は在学年数に加えない。

(復学)

第38条 休学期間満了のとき又は休学期間中であってもその理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第39条 他の大学に転学を希望する場合は、連帯保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

(留学)

第40条 外国の大学又は短期大学に留学しようとする者は、学長に願い出、その許可を得なければならない。

2 前項により留学した期間は、教授会が認めた場合には第15条に定める修業年限に含めることができる。

(退学)

第 41 条 退学しようとする者は、その事由を記して連帯保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

(除籍)

- 第42条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。
 - (1) 第16条に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第37条第5号に定める休学期間を超えてなお修学できない者
 - (3) 無届けのまま長期欠席した者
 - (4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

第5節 卒業及び学士号

(卒業)

第43条 本学の修業年限(第25条第1項により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、学部履修規程に定める以上の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書を授与する。

(学位授与)

第44条 本学を卒業した者に、次の学士の学位を授与する。

子ども学科 学士 (子ども学)

家族・地域支援学科 学士(子ども学)

子ども心理学科 学士(子ども学)

教育学科 学士(教育学)

第6節 賞罰

(表彰)

第45条 学生として表彰すべき行為があったときは、学長は、教授会の議を経てその者を 表彰する。

(懲戒)

第46条 学長は、教育上必要があると認めた場合は、学生を教授会の議を経て懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学、退学とする。
- 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7節 福利厚生施設

(福利厚生施設)

第47条 本学に、福利厚生のための施設を置くことができる。

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

第 48 条 削 除

第8節 研究生、科目等履修生、社会人学生及び外国人留学生

(研究生)

第49条 本学において、専攻事項について研究しようとする者があるときは、授業及び研究に妨げのない限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第50条 本学において開設する授業科目のうち、1科目又は数科目を選んで履修を希望 する者があるときは、当該科目の授業に支障がない限り、選考のうえ、科目等履修生とし て入学を許可することがある。

2 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

(社会人学生)

第51条 社会人で本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、社会人学生として入学を許可することがある。

2 社会人学生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第52条 外国人で本学において教育を受ける目的を持って入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第9節 入学検定料、入学金、授業料及び施設費等

(入学検定料、入学金、授業料及び施設費等)

第53条 入学検定料、入学金、授業料及び施設費等の額は、別表2のとおりとする。

- 2 修業年限を超えて在学する者についての在籍料及び授業料等は別表第2のとおりとする。
- 3 入学金ならびに1年次前期の授業料及び施設費等は、第21条第1項に規定する合格 通知を行うときに指定する期日までに納付しなければならない。
- 4 授業料及び施設費等 (1年次前期に係るものを除く) は、毎年これを原則前期、後期の2回に分けて納入しなければならない。

(入学金、授業料及び施設費等の免除、徴収の猶予又は分納)

第54条 本学において特別の事情があると認めたものについては、入学金、授業料、施設費等の全部又は一部を免除し、徴収を猶予し、又は分納を許可することがある。

(退学等の場合の授業料及び施設費等)

第55条 前期又は後期の途中において退学した者、転学した者又は除籍された者は、当該期の授業料及び施設費等を全額納入しなければならない。

2 停学の場合は、その期間中の授業料及び施設費等は納付しなければならない。 (休学の場合の授業料及び施設費等)

第56条 学期の開始期までに休学を許可された者は、当該期分の在籍料を納入しなければならない。但し、授業料及び施設費等は免除する。

2 学期の途中で休学を許可された者は、その期の授業料及び施設費等を納入しなければならない。

(入学を辞退する場合の授業料及び施設費等)

第57条 入学手続き完了後入学を辞退する者で、本学が指定した期日までに申請をした者については、授業料及び施設費等を還付する。

第10節 公開講座

(公開講座の開設)

第58条 本学の教育・研究成果を広く公開するため公開講座を行うことがある。

2 公開講座に関して必要な事項は別に定める。

第11節 附属施設

(附属施設)

第59条 本学の附属施設として、幼稚園を置く。 2 附属施設に関して必要な事項は別に定める。

第3章 改正

(改正)

第60条 本学則の改正は、理事会の専決事項を除き、教授会の議を経て、理事会の承認を 得た後、学長がこれを行うものとする。

附則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成18年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成19年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成20年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成21年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成 22 年 1 月 20 日から施行する。 附則
- この学則は、平成22年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成23年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成24年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成25年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。 附則
- この学則は、平成27年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成28年4月1日から施行する。 附則
- この学則は、平成29年4月1日から施行する。 瞬間
- この学則は、平成30年4月1日から施行する。 附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

- 1. この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2. 但し、別表1子ども学部子ども学科カリキュラムは平成29年度入学生のみ、子ども学部発達臨床学科は平成30年度入学生のみ適用し、以外の入学年次生カリキュラムは従前の規定による。
- 3 第22条については、令和3年1月25日より施行する。ただし令和2年4月1日以降入学手続きを行った学生に追認し、適用する。

附則

- 1. この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2. 別表1は令和3年度入学生に適用し、それ以前の入学生には従前のカリキュラムを 適用する。

附則

1. この学則は令和3年10月1日から施行する。

附則

- 1.この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2. 別表 1 は令和 4 年度入学生に適用し、それ以前の入学生には従前のカリキュラムを適用する。

附則

- 1. この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2. 第3条、第44条及び別表1、別表2は、令和6年度入学生に適用し、それ以前の入学生は従前の学則を適用する。

別表1 白梅学園大学 子ども学部 子ども学科カリキュラム

令和6年度学則適用

۲. ۲ ۲۰	支	日冊字園天字 于とも字				-5- 1	斗刀	ソナ		14		ı							-	☆៕	\ر. − ا≱	亜 +>	令和6年度字則適用 T
科目	区分	授 業 科 目	単位	授業 方法	時間			修選	<u> </u>		分割				学 <u>年</u> ・学	≠期配当	<u> </u>				美に必 単位数	友	備考
						_	保社卒	保	幼	_			1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	幼保	保社	その他	1
		外国語 I A	1	演習		必			選必		10	0											
	外国語	外国語IB	1	演習		必	必	+	選必		10	1	0	-									
		外国語ⅡA	1	演習		必	必	_	選必	_	10	-		0	_			_		ļ			
	,,	外国語ⅡB	1	演習		必	必	+	選必	·	10	_	<u> </u>	1	0					-			
		スポーツと健康A	1	実技		必	必	必	必		7	0											
ŀ		スポーツと健康B	1	講義	_	必	必	必	必	-	2		0										
		情報処理	2	演習		必	必	必	必		6	0											
-		データサイエンス ヒューマニズム論基礎	2	講義	_	選	選			-	2			0									
	ュ	ヒューマニズム論発展	2	講義講義		必	必				2	0											
	I	日本国憲法	2	_		選	選		2/		1				0								
		日本文化論	_	講義講義		選	選選		必		2			0									
	ニ ズ	多文化理解	2	講義		選選	選				1	0	0										
教	ム	海外教育福祉演習	2	演習		選	選				1	0											
養		地域子育て支援演習	2	演習		選	選				1	0									28		
教		哲学と思想	_	講義	_	選	選				1				0						畄		
育	基	文学とメディア	2	講義		選	選				1			0	Ĭ					ł	28 単 位		
課程	幹	人間社会と歴史学		講義		選	選				1		0							i	177		
達	Α	世界の芸術	2	講義		選	選				1		0							i			
		人間社会と数学	2	講義	_	選	選				1	1	0							1			
	基於	環境と生物	2	講義		選	選				1			0						1			
	幹 B	生活と化学	2	講義		選	選				1				0					1			
	Ь	地球と科学		講義		選	選				1	0								1			
		ジェンダーと社会学	2	講義	_	選	選				1				0					1			
	基	消費社会における経済学	2	講義	_	選	選				1			0						1			
	幹 C	地域社会における地理学	2	講義	30	選	選			L	1	0											
		生活の中の政治	2	講義	30	選	選				1		0										
İ	教	教養基礎演習A	1	演習	30	必	必	必			17	0											
	養	教養基礎演習B	1	演習		必	必	必			17		0										
		教養発展演習A	1	演習		必	必	必			13			0									
	習	教養発展演習B	1	演習	30	必	必	必			13				0								[28単
		現代子ども学	-	講義		必	必	選必#	選必△		1	0											
		子ども学フィールド演習	1	演習	_	選	選				1)										
		子どもの思想と歴史	2	講義	_	選	選		選必△		1			0								専	
		子ども文化論	2	講義		選	選	_	選必△	-	1	ļ			0							門教	
	~	子ども社会学	2	講義		選	選	選必##	_		1	1				0	_					育	
專	子ど	子どもと法	_	講義		選	選	選必##	_		1						0					譚	
明	ど も	子育て文化論	2	講義		選	選	選必#	-		1	-	_				0	_		12	12	課程全	
教	学	子ども家庭福祉	-	講義		選	選	必		必	1		0							単位	単位	全	
育課	科	子どもと世代形成	2	講義		必	必	選必##	-		1								0	位	1立	体	
辞程	目	子どもとコミュニティ	_	演習		選必	+	_	選必△		1					0						か	※幼保の卒業単位として、選必
r±		子どもと科学	2	演習		選必	+	-	選必△	+	1						0					ら	件は5科目の中から1科目2単位
		子どもとパフォーマンスアート 子どもとメディア	2	演習		選必	Υ.	 	選必△	_	1						0			ł		幼	以上とする。
			_	演習		選必	\sim	-	選必△		1							0				切炉	
		子どもと生活デザイン		演習				-	選必△		1							0				保コ	
-		社会調査法演習 専門ゼミナールIA	1	演習	_	選	選		-	1	1 14	1				0	0	-		-		 	
	=	専門ゼミナールIB	1	演習		必必	必必			1	14						0	-			0	ース	
	14 +	専門ゼミナールⅡA	1	演習		业业	业业				14	1						0		8 単	8 単	_	
		専門ゼミナールⅡA 専門ゼミナールⅡB	1	演習		业业	必必	-		+	14								0	位	位	3	
	ルル	卒業論文	4	坪百	30	业业	业业	-		1	14	1				-		0	0	1-4	1-1-	0	
-		発達心理学	_	講義	30	业业	必必	必	必	1	1	0							0	 		単	
		学習過程の心理学	1	講義		選	選	30,	, 'C'	1	1	\vdash	0							1		位	
		教育原理		講義		選	選	必	必	1	1	l	0							l		/	
		保育原理		講義		選	選	必必	必必		1	0								l		保	
		社会福祉	2	講義		選	選	必必	/Li*	必	1	0								l		社	
		保育者論		講義		選	選	必	必		1	Ť			0					1			
		教育の方法	_	講義		選	選	1	必		1				Ť	0				1		ΙĪ	
		保育指導法		演習		選	選	必	必		3					0				1		ス	
		保育·教育課程論	_	講義		選	選	必	必		1			0		Ť				1		_	
		乳児保育 I		講義		選	選	必		İ	1				0					1		2	
		乳児保育Ⅱ		演習		選	選	必			3					0				1		4	
		保育内容総論	1	演習		選	選	必	必		3	0								1		単位	
		保育内容健康	1	演習		選	選	必	必		3		0]		位	
		保育内容人間関係	1	演習		選	選	必	必	L	3	L	0										
		保育内容環境	1	演習	15	選	選	必	必		3		0										
		保育内容言葉	1	演習			選	必	必		3		0										
		保育内容表現	_	演習		選	選	必	必		3		0										
		健康の指導法	2	演習	30	選	選	選必合	必		3			0									
	_	人間関係の指導法	2	演習		選	選	選必合	必		3			0]			
	専	環境の指導法	2	演習	30	選	選	選必合	必		3			0									
	門基	言葉の指導法		演習		選	選	選必合	必		3			0						38	24		
	栓	表現の指導法		演習		選	選	選必合	必		3			0						単	単		
	科	子どもの保健		講義		選	選	必			1				0					位	位		
	Ħ	子どもの保健と安全	_	演習		選	選	必			3					0							
		子どもの食と栄養論	_	講義	_	選	選	必		1	1	ļ		0									
		子どもの食と栄養	2	演習	30	選	選	必			3				0					J			

私日	区分	授業科目		授業 方法			ıν	修•選	型		分割				学在•学	学期配当	<u> </u>				業に必 単位数			 考
14 🗆		12 * 17 1	177	73 /24	[H]	幼保卒	保社卒			社	一门	1前	1後		2後			4前	4後	_		その他	νm	75
		子ども理解の理論と方法	1	演習	15	-	選	必	必	T -	3	1.77		13.3			0			-7,51		 		
		保育の特別支援	2	_	30	選	_	_	_		3					0				1				
		社会的養護 I	2	講義		選	選	必			1				0					1				
続		社会的養護Ⅱ	1	演習		_	選	必			3					0				1				
き		子ども家庭支援論	2	講義	_	選	選	必			1					Ŭ	0			1				
J		子ども家庭支援の心理学	2	講義	_	選	選	必			1							0		1				
専		保育相談支援	1	演習	_	選	選	必必	必		3							0		1				
門		保育所実習指導 I					_	_	业		3							0		1				
教			1	演習	_	選	選	必) 	_			0					-				
育		保育所実習I	2	実習	_	選	選	必							0					-				
課		施設実習指導I	1	演習		_	選	必			3	_				0								
程		施設実習I	2	実習	_	選	選	必								0				1				
		保育所実習指導Ⅱ	1	演習	_	_	選	選必#	_		2						0							
		保育所実習Ⅱ	2	実習	90	選	選	選必#				1					0							
		施設実習指導Ⅱ	1	演習	15	選	選	選必#			1						0							
		施設実習Ⅱ	2	実習	90	選	選	選必#				1					0							
		教育実習	5	実習	190	選		1	必			1		0				0]				
		保育·教職実践演習(幼稚園)	2	演習	_	選	選	必	必		3	1							0	1				
		保育技術演習 I (音楽A)	1	演習	_	選	選				2	(Ċ									1 !		
		保育技術演習 II (音楽B)	1	演習	_		選	選必##			16		5							1				
		保育技術演習Ⅲ(造形表現)	1	演習		選	選		選必△		1		Ĭ	0						1		i		
		保育技術演習IV(ものデザイン)	1	演習	_	選	選		25.0-2		1				0					1				
	-		2	演習		選	選				1	+				0				1				
		野外活動と保育	_		_	_	_		NE 24 A		 									6	6			
	高	医療と保育	2	講義	_	選	選		選必△	1	1					0				単	単			
	度	国際社会と保育	2	_	30	選	選		選必△	+	1					0				位	位			
	化	保育マネジメントと行政	2	講義		選	選		選必△		1							0						
		保育ソーシャルワーク I	2	講義	_	選	選	選必##	-	必	1				0									
	目	保育ソーシャルワークⅡ	2	演習	30		選	選必##		必	1					0				_				
		事例研究演習	2	演習	30	選	選				1						0							
		保育実践高度化演習	2	演習	30	選	選				1							0]		
		アフタースクール研究	2	講義	30	選	選			選	1				0]		
		医学概論	2	講義	30	選				必	1			0						1				
		心理学と心理的支援	2	講義	30	選				必	1			0						1				
		社会学と社会ステム	2	講義	30	選				必	1				0					1				
		現代社会と福祉	2	講義			選			必	1							0		1				
		社会保障 I	2	講義	_		選			必	1	1			0					1				
		社会保障Ⅱ	2	講義	_		選			必	1	1						0		1				
		障害者福祉論	2	講義	_	選	選	選必##		必	1				0					1				
		公的扶助論	2	講義		選	選	選必##		必必	1					0				1				
		地域福祉の理論と方法Ⅰ	2	講義		/25	選	22.6		必	1			0						1				
		地域福祉の理論と方法Ⅱ		講義			選			必	1				0					1				
	子	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2		_	選	選			必	1			0						1				
	کے	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	講義	30		選			必	1				0] .				
		高齢者福祉		講義		選	選			必	1		0							4	24			
		社会福祉調査の基礎	2	講義		\angle	選	_		必	1	1				0				単	単			
	祉 科	ソーシャルワークの理論と方法IA	2	講義	30		選			必	1					0				位	位			
	目	ソーシャルワークの理論と方法 I B	2	講義	30		選			必	1	-					0			-				
		ソーシャルワークの理論と方法ⅡA ソーシャルワークの理論と方法ⅡB		講義			選選			必必	1	+				0	0			1				
		福祉サービスの組織と経営	_	講義			選			必必	1	+						0		1				
		保健医療と福祉		講義		選	選			必必	1	1					0			1				
		権利擁護と成年後見		講義						必	1	1					ŏ			1				
		刑事司法と福祉		講義			選			必	1	f					ŏ			1				
		ソーシャルワーク演習 I	1	演習			選			必	2			0										
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	演習	30		選			必	2				0					1				
		ソーシャルワーク演習Ⅲ		演習			選			必	2					0				1				
		ソーシャルワーク演習IV		演習			選			必	2	1					0			4				
		ソーシャルワーク演習V	1	演習			選			必	2	1	-				Ь,	$\overline{0}$		1				
1		ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習	3 4	演習実習			選選			必必	2	+				-	()		1				[98]
																		0						

5I) :	表1	白梅学園大学 子ども学				地項					7-	ユフィ									令和6年	
科	目区分	授業科目	単位	授業 方法	間	卒業	必修 介	・選択	ssw*	_	1前	1後			期配当3前		4前	4後	卒業に 単位		備 考	į
		外国語IA	1	演習		必必				10	0											_
	外国語	, 外国語 II A 外国語 II A	1	演習						10		0	0									
		外国語ⅡB	1	演習		必				10			Ŭ	0								
	体	スポーツと健康A	1	実技		必				7	0											
	育	スポーツと健康B	1	講義						2		0										
	情報	情報処理 データサイエンス	2	演習講義	_					6	0		0									
	+ IX	ヒューマニズム論基礎	2	講義		必				2	0											
	그	ヒューマニズム論発展	2	講義		選				1				0								
	マ	日本国憲法	2	講義		選				2			0									
₩L.	ニズ	日本文化論 多文化理解	2	講義		_				1	0	0										
教	7	海外教育福祉演習	2	演習		_				1	0											
養教育课	科目	地域子育て支援演習	2	演習						1	ŏ								28			
玄	基	哲学と思想	2	講義						1				0					单位	<u> </u>		
果	幹	文学とメディア	2	講義		_				1			0						乜	<u> </u>		
呈	Α	人間社会と歴史学 世界の芸術	2	講義						1		0										
	#	人間社会と数学	2	講義						1		Ö										
	基幹	環境と生物	2	講義						1			0									
	B	生活と化学	2	講義						1				0								
		地球と科学 ジェンダーと社会学	2	講義	_					1	0			0								
	基	消費社会における経済学	2	講義		_				1			0									
	幹 C	地域社会における地理学	2	講義	30	選				1	0		Ľ									
		生活の中の政治	2	講義	30	_				1		0										
	教義	教養基礎演習A 教養其群演習B	1	演習		必	-	-		17	0											
	養演	教養基礎演習B 教養発展演習A	1	演習		必必				17 13		0	0									
	習	教養発展演習B	1	演習		必必				13				0								[28]
		現代子ども学	2	講義	30	必				1	0	_										
	_	教育原理	2	講義					必	1		0										
	子ど	子ども家庭福祉 保育原理	2	講義講義			-	必	-	1	0	0	-									
	ŧ	子ども文化論	2	講義		_				0			0									
	学	障害者教育総論	2	講義		_				0	0								12 単			
	⊐	発達心理学	2	講義		選	必		必	1	0								位			
	ア	現代家族論	2	講義		必	必			1	0								1-7-			
	科目	アフタースクール研究スクールソーシャルワーク論	2	講義講義		必選			必	1				0								
		フィールドワーク	2	講義					北	1	0											
		地域まちづくり論	2	講義	_	_	必			1			0									
	ゼ	専門ゼミナールIA	1	演習		_									0				_			
	ルミルナ		1	演習	_	必										0			8 単			
	ルナ	専門ゼミナールⅡA 専門ゼミナールⅡB	1	演習		必必											0	0	位			
		卒業論文	4	供日	30	必必											0	0	1.77			
		社会福祉	2	講義	30	必	必	必		1	0									†		
		現代社会と福祉	2	講義				必		1							0					
	家	社会学と社会システム	2	講義		選	27	必		1				0								
	族	社会保障 I 社会保障 Ⅱ	2	講義講義		選選	必	必必		1				0	0							
	- tth	医学概論	2	講義		_	必	必		1			0									
	地域	障害者福祉論	2	講義	30	選	Ė	必		1				0								
	論	公的扶助論	2	講義		選		必		1					0							
卓	科	地域福祉の理論と方法 I 地域福祉の理論と方法 II	2	講義講義		選選		必必		1				0								
Ę	目	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2	講義		選		必必		1												
女		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	講義		選		必		1			Ľ	0								
X		社会福祉特論	2	講義	_	選				1							0		28			
育		高齢者福祉	2	講義			必必	必		1		0							単 位			
果	索	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション	2	講義講義		必選	必必			1	0								ĺΛ			
呈	家族	フミュニケーション技術A	1	演習			必必			1	Ö											
-	/ /	コミュニケーション技術B(手話・点字)	1	演習	30	選	必			1	Ľ	0										
	地	こころとからだのしくみ I	2	講義		選	必			1	0											
	域	こころとからだのしくみ II 心理学と心理的支援	2	講義		選選	必	必		1		0										
	支	心理学と心理的文援 精神保健	2	講義		選	必	业	必	1			0	0								
	援	社会的養護	2	講義		選	٠		٠	1					0							
	科	障害の理解	2	講義	30	選	必			1					Ō							
	目	子どもの障害の理解	2	講義		選	必			1				0								
		世代間交流論世代間交流演習	2	講義		選選		-		1		-	0	0								
		介護の基本I	1	演習		_	必			1	0									†		
		介護の基本Ⅱ	1	演習		選	必			1	Ľ	0										
		介護福祉現場体験(介護実習 I)	2	実習		選	必					0										
		介護の基本(身体)	2	講義		選	必			1		0								_		
	家	介護の基本(精神) 介護の基本(居宅)	2	講義		選選	必必			1		-			0					28		
	族	介護福祉特論	2	講義		選	业业			1					U		0			単し位し		
	援	老年心理学	2	講義		_	必必			1	L	0								1		
	助	認知症の理解 I (基礎)	2	講義	30	選	必			1		Ŏ										
	科日	認知症の理解Ⅱ(発展)	2	講義		_	必			1			0									
	目	介護過程 I (気づき) 介護過程 II (観察・情報収集)	1	演習	_	選	必必	-		1		0	0									
		介護過程Ⅱ(観祭・情報収集) 介護過程Ⅲ(アセスメント・計画立案・展開)	1	演習		選選	必必	1		1				0								
		介護過程IV(展開·事例検討)	1	演習	_	選	必必			1					0			\vdash				
	1			演習		選	必必			1					$\overline{}$	0						
		介護過程 V (チームアプローチ)	1																			

#1 C	ㅁ	拉 类 钌 口	単	授業			必修	•選択		分			ć	学年・学	期配	4			卒業に	必要な	/± ±	<u>.</u>
科目	区分	授 業 科 目	位	方法	間	卒業	介	社	ssw*	割	1前	1後	_				4前	4後		立数	備考	ī
		社会福祉調査の基礎	2	講義	30	選		必		1					0							
		ソーシャルワークの理論と方法IA	2	講義	30	選		必		1					0				1			
		ソーシャルワークの理論と方法 IB	2	講義	30	選		必		1						0						
		ソーシャルワークの理論と方法ⅡA	2	講義	30	選	必	必		1					0				1			
		ソーシャルワークの理論と方法 IIB	2	講義	30	選		必		1						0						
$\overline{}$		福祉サービスの組織と経営	2	講義	30	選		必		1							0					
続		保健医療と福祉	2	講義	30	選		必		1						0						
き	相	権利擁護と成年後見	2	講義	30	選		必		1						0			1			
_	談	刑事司法と福祉	2	講義	30	選		必		1						0						
専	援	ソーシャルワーク演習 I	1	演習	30	選		必		3			0						22			
門	助	ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	演習	30	選		必		3				0					単			
教	科	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	演習	30	選		必必		3					0				位			
育	目	ソーシャルワーク演習IV	1	演習	30	選		必必		3					0	0			-			
課		ソーシャルワーク演習V	1	演習	30	選		必必		3							0		-	1 1		
程		ソーシャルワーク実習指導		演習	90	選		必必		3										1 1		
		1 111111	3	_						3						0				1		
		ソーシャルワーク実習	4		240	選		必	2/	/												
		スクールソーシャルワーク演習	1	演習	15	選			必	1							0					
		スクールソーシャルワーク実習指導 スクールソーシャルワーク実習	2	演習 実習	15 90	選選			必必	1							0					
		医療的ケア(経管栄養)	2	講義	34	選	必		绝	1						\cap			ł			
		医療的ケア(吸引)	2	講義	34	選	必			1					0				-			
		医療的ケア(演習)	1	演習	15	選	必			2						0			1			
		生活支援技術A	2	演習	60	選	必			1	0								1			
		生活支援技術B	2	演習	60	選	必			1		0										
	4.1	生活支援技術(生活の中の遊び・造形)	1	演習	30	選	必			1			0]			
	対	生活支援技術(家庭経営・居宅介護)	1	演習	30	選	必			1			0									
	人	生活支援技術(生活の中の音楽とダンス)	1	演習	30	選	必			1				0								
	支	生活支援実習(食生活)	1	実習	30	選	必			1					0							
	援	生活支援実習(住生活)	1	実習	30	選	必			1					0]			
	科	生活支援実習(衣生活)	1	実習	30	選	必			1				0								
	B	介護総合演習I	1	演習	30	選	必			1		0										
	_	介護総合演習Ⅱ	1	演習	30	選	必			1			0									
		介護総合演習Ⅲ	1	演習	30	選	必			1				0								
		介護総合演習IV	1	演習	30	選	必			1					0							
		介護実習Ⅱ	4	実習	160	選	必				1		0						1			
		介護実習Ⅲ	4	実習	180		必							0					1			
		介護実習IV	1	実習	40	選	必				1				0				1			[98単
		1/1 BX/N G **		1/\1	10	~								1		I .	r			-		[126単

別表1 白梅学園大学 子ども学部 子ども心理学科カリキュラム

ᄼᆚᅜ	区分	授 業 科 目	単	授業	時間	业	修∙逞	【択	分				学年•学						必要な	借	考	
			位		_	卒業		幼	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単位	立数	VÆ	.73	
		外国語IA	1	演習		必		選必	10	0												
	外国語	外国語 I B	1	演習				選必	10		0											
	八四品	外国語ⅡA	1	演習	30	必	選必	選必	10			0										
		外国語ⅡB	1	演習		必	選必		10				0									
f	体	スポーツと健康A	1	実技	_	必	必	必	7	0								1				
	育	スポーツと健康B	1	講義	_	必	必	必	2		0							1				
- 1	<u>- : :</u> 情	情報処理	2	演習		必	必	必	6	0	Ť							1				
	報	データサイエンス	2	講義		必必	, E.,	, E.,	2	\vdash		0						1				
- }	±K E	ヒューマニズム論基礎		_	_			+	_				-					ł				
	그		2	講義	_	必			2	0			_					ł				
	- 1	ヒューマニズム論発展	2	講義	_	選			1	-			0									
	マ	日本国憲法	2	講義				必	2			0										
	=	日本文化論	2	講義	30	選			1	0												
₩_	ズ ム	多文化理解	2		30	選			1		0											
数	科	海外教育福祉演習	2	演習	30	選			1	0												
養	盲	地域子育て支援演習	2	演習	30	選			1	0								2	28			
教		哲学と思想	2	講義	_	選			1				0					È	单			
育	基	文学とメディア	2	講義					1			0						住	单 立			
果	幹	人間社会と歴史学	2	講義				1	1		0							1 "				
程	Α	世界の芸術	2	講義		選		1	1		0							1				
ŀ			_	_	_	_	<u> </u>	+	_	\vdash			-					ł				
	基	人間社会と数学	2	講義	_	_	1	1	1	-	0	-	-				-	l				
	幹	環境と生物	2	講義	_	選	-	-	1			0	_				_					
	В	生活と化学	2	講義		選			1				0									
Į		地球と科学	2	講義		選			1	0								1				
ſ	#	ジェンダーと社会学	2	講義	30	選	\Box	\Box	1	L	┗		0									
	基龄	消費社会における経済学	2	講義	30	選			1			0										
	幹 C	地域社会における地理学	2	講義	_	_			1	0								1				
		生活の中の政治	2	講義					1	Ĺ	0							1				
ŀ	≱ h	教養基礎演習A	1	演習		必	必		17	0	Ť							1				
	教養	教養基礎演習B	1	演習	_		必必	1	17	\vdash	0							1				
		教養発展演習A	1				_	1										1				
	習		_	演習		必	必	-	13	-	-	0					-	1				Fe-
_	н	教養発展演習B	1	演習		必	必	1	13	<u> </u>			0						 			[28
		現代子ども学	2	_	30	_	選必##	必	1	0									専			
		心理学概論	2	講義		必			1	0									門			
		発達心理学	2	講義	_	必	必	必	1	0									拟			
		臨床心理学概論	2	講義	30	必			1		0								教育			
		社会心理学概論	2	講義	_	必			1			0						1	育			
	子	教育•学校心理学	2	講義	_	必		必	1				0					1	課			
	ど	障害者教育総論	2	講義	_	選	選必##		1	0								200	起			
	ŧ	精神医学	2	講義		_			1	\vdash			0					20	課程全体			
専	心	心理学研究法	2	講義	_	必		+			0							単位	全			
明	理	心理学術先法	_	_	_	_		1	1	-								付	体			
牧	科		2	講義	30	必	-	-	2	-		0	_					'-	か			
育	目	心理学実験		演習					4	-			0									
果		心理面接法	2		30		_	選必※	1	-				0					6			
呈		心理的アセスメント	2		30		選必##	選必※	1						0							
_		心理学質問紙法	2		30				1					0]	1			
		心理学質的方法	2	演習	30	選			1	L					0				1			
		心理学英文講読	2		30				1						0			1	6			
Ī	ゼ	専門ゼミナール I A	1		30				5					0					1			
		専門ゼミナールIB	1		30				5						0			8	単			
	科 +	専門ゼミナールⅡA	1	演習		_			5							0			位			
	目门	専門ゼミナールⅡB	_					 	5									単位	177			
	ル		1	(典省	30	必		-	Э	-							0	1111				
ŀ		卒業論文	4	3# ¾-	000	必	51	31	-	-	_		-			0	0	\vdash	1			
		教育原理	2	講義	_	選	必	必	1		0							1				
		保育原理	2	_	30	_	必	選必※	1	0								1				
		保育者論	2	講義			必	必	1					0								
		保育の特別支援	2	演習	30		必	必	1	L_	_	0]]				
		保育·教育課程論	2	講義			必	必	1			0										
	保	保育内容健康	1	_	15		必	必	1		0							1				
		保育内容人間関係	1	演習	_		必	必	1		Ī	0						ĺ				
		保育内容環境	1	演習	_		必	必	1		0							1				
		保育内容言葉	1	演習	_	_	必必	必必	1		\vdash	0						1				
		保育内容表現	1				必必		1		0							1				
					15			必必			1		-					1				
		保育内容総論	1		30		必	必	1	0							-					
		保育指導法	2	演習	_		必	必	1					0								
		健康の指導法	2	_	30	_	必	必	1					0								
		人間関係の指導法	2	演習		_	必	必	1				0]				
		環境の指導法	2	演習	30	選	必	必	1	L	L	L	0				L					
		言葉の指導法	2		30		必	必	1					0]				
		表現の指導法 I (音楽A)		演習			必	必	2			0						1				
		表現の指導法 II (音楽B)		演習			必	必必	12			0						1				
		表現の指導法Ⅲ(造形表現)	1	演習	_		必必	必必	1			0						1				
			_				业	业业	_	-					0			1				
		数本の上注				1 7 7 1 1	1	1 1/2	1				1		()							
		教育の方法 子ども理解の理論と方法	2	講義	15	_	必	必	1	-					0			4				

到日辰八	13 ** 되 ㅁ	単	授業	時	必	修•選		分				学年・学	- 期配当	<u> </u>			卒業に	必要な	備者
科目区分	授 業 科 目	位	方法	間	卒業	保	幼	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単	位数	1
	保育相談支援	1	演習	15	選	必	必	1						0			単		
	社会福祉	2	講義	30	選	必		1	0								位		
	子ども家庭福祉	2	講義	30	選	必		1		0							'		
	社会的養護 I	2	講義	30	選	必		1			0						1		
	社会的養護Ⅱ	1	演習	15	_	必		1				0							
	子ども家庭支援論	2	講義	30	選	必		1				0					i		
保	子どもの保健	2	講義	30	選	必		1				0					i		
体	子どもの健康と安全	1	演習	30	選	必		1					0				1		名称変更
	子どもの食と栄養論	1	講義	15	選	必		1			0						1		110000
教	子どもの食と栄養	2	演習	30	選	必必		1				0					1		
預	プログラスで表 乳児保育 I	2	講義	30	選	业业		1	-			0					-		
月	乳児保育Ⅱ	1	演習	15	選	业业		1				0	0						
	1 1 11 11	1			_								0				l		
	保育所実習指導I	1	演習	15		必		1				0					-		
続	保育所実習I	2	実習	90	選	必						0							
き	施設実習指導I	1	演習	15	選	必		1					0						
<u> </u>	施設実習I	2	実習	90	選	必							0						
専	保育所実習指導Ⅱ	1	演習	15	選	選必#		1						0					
門	保育所実習Ⅱ	2	実習	90	選	選必#								0					
教	施設実習指導Ⅱ	1	演習	15	選	選必#		1						0					
育	施設実習Ⅱ	2	実習	90	選	選必#								0					
課	教育実習(幼稚園)	5	実習	190	選		必				0				0				
程	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	演習	30	選	必	必	3								0			
	知覚•認知心理学	2	講義	30	選		選必※	1		0									
	学習・言語心理学	2	講義	30	選	選必##	選必※	1		0									
	感情•人格心理学	2	講義	30	選			1			0						1		
	神経・生理心理学	2	講義	30	選			1				0					1		
心	司法•犯罪心理学	2	講義	30	選			1					0				1		
理	産業·組織心理学	2	講義	30	選			1						0			14		
発	インクルーシブ保育A(アセスメントと個別計画)	1	演習	15	_	選必##		1					0				単		*9科目から6科目選択必修
展	インクルーシブ保育B(ユニバーサル環境と教材)	1	演習	15		選必##		1						0			果		
科	インクルーシブ保育C(実践臨床と保護者支援)	1	演習	15		選必##		1							0		位		
	ライフコース心理学A(家族臨床)	1	演習	15		選必##		1				0							
	ライフコース心理学B(ジェンダー) ライフコース心理学C(コミュニケーション)	1	演習	15 15	_	選必##		1					0	0					
	赤ちゃん学A(胎児健康心理学)	1	演習	15	_	選必##		1					0				1		
	赤ちゃん学B(社会情動発達学)	1	演習	15		選必##	_	1					\vdash	0			1		
	赤ちゃん学C(子ども環境心理学)	1	演習	15	_	選必##		1							0		1		[98単位]
<u> </u>								•											[126単位]

別表1 白梅学園大学 子ども学部 教育学科カリキュラム

別表1	1	白梅学園大学 子ども学				科	<u>カリ</u>	<u>+-</u>	レラュ	4											1710-13	4子则 迎 用
科目区	分	授 業 科 目		授業 方法	時間	卒業		•選択 中	特	分割	1前	1後			期配当		4前	4後	卒業に 単位		備	考
		外国語IA	1	演習	30	必	_	選必		10	0											
外国		外国語IB	1	演習		-	_			10		0					\bigsqcup					
	L	外国語ⅡA	1	演習		-		選必		10			0				\sqcup					
	_	外国語ⅡB	1	演習		-	選必			10				0			\sqcup		ļ			
(4 首		スポーツと健康A	1	実技		-	必	必		7	0						$\vdash \vdash \vdash$					
	_	スポーツと健康B 情報処理	2	講義		-	必	必		2		0					$\vdash\vdash\vdash$					
帽		データサイエンス	2	() 講義	30	_	必	必		6	0		0				\vdash					
- T		ヒューマニズム論基礎	2	講義		-				2	0						$\vdash \vdash$					
=	그	ヒューマニズム論発展	2	講義		_				1				0			\vdash					
	' '	日本国憲法	2	講義		+	必	必		2			0									
=	<u> </u>	日本文化論	2	講義		_				1	0											
Z	ズ	多文化理解	2	講義		+				1		0										
教 五	4	海外教育福祉演習	2	演習		選				1	0						\Box					
炙 ァ	7	地域子育て支援演習	2	演習	30	選				1	0								28	3		
! .	,	哲学と思想	2	講義	30	選				1				0					単 位	<u>í</u>		
ヲ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ ゟ		文学とメディア	2	講義	30	選				1			0						位	Ī.		
望 4		人間社会と歴史学	2	講義	30	選				1		0										
ـَـــا		世界の芸術	2	講義		_				1		0					Щ					
_		人間社会と数学	2	講義		-				1		0					\sqcup					
草	순	環境と生物	2	講義		_				1			0				$\sqcup \sqcup$					
Ē	3 L	生活と化学	2	講義		_				1				0								
<u> </u>		地球と科学	2	講義		-				1	0						igwdown					
表		ジェンダーと社会学	2	講義						1				0			$\vdash \vdash$					
卓	순	消費社会における経済学	2	講義			-			1	_		0				$\vdash \vdash$					
Ċ		地域社会における地理学	2	講義		_	-			1	0						$\vdash \vdash$					
-		生活の中の政治	2	講義		-	-	-		17	_	0					$\vdash \vdash$					
教	· .	教養基礎演習A	1	演習		-				17	0						$\vdash \vdash \vdash$					
養湯		教養基礎演習B	1	演習		+				17		0					$\vdash \vdash \vdash$					
習	127	教養発展演習A	1	演習						13			0				$\vdash\vdash\vdash$					Foo ##
+-		教養発展演習B 現代子ども学	1	演習	30	必必	252	244		13	0			0			$\vdash \vdash$			=		[28単
		子ども期の学び	2	講義講義			選選	選		1	0		0							専		
		学校フィールドワーク	2	演習			選	選		1		0					\vdash			門		
基	基	コミュニティと教育	2	講義			選	選		1		Ŭ		0					14	教		
草	全	教育の哲学と思想	2	講義	30	選	選	選		1			0						単	育		
科		学校と教育の歴史	2	講義	30	_	選	選		1				0			igsquare		平	課		
		現代教育の基本問題	2	講義	30	_	選	選		1					0		\sqcup		位	和		
		自然科学野外実習	1	演習	30	_	選	選		1			0				$\vdash \vdash \vdash$			程	集中	
		学校·学級経営論 特別支援教育特講	2	講義講義		_	_	必選	必	1						0	\vdash	0		全	集中	
	ガ	専門ゼミナール I A	1	演習			124	迷	3E.	6					0		\vdash			体		
1 .1	1	専門ゼミナールIB	1	演習						6						0			8	か		
目目	ナ	専門セミナール II A	1	演習						6							0		単	b		
		専門ゼミナールⅡB	1	演習	30	必				6								0	位	34		
		卒業論文	4	244-34		必		24		/							0	0		単		
		教職概論	2	講義	30	必必	必	必必		1		0					$\vdash \vdash$			半		
		教育原理 教育の社会制度論	2	講義講義	30	必選	必必	必必		1	0					0				位		
		教育課程論	2	講義	30		必必	必		1		0										
		教育の方法	2	講義	30	_	必	必		1		Ľ			0							
専 教	4	情報通信技術活用の理論と方法	2	講義	30	選	必	必		1				0					16			
子 第 第	싚	発達心理学	2	講義			必	必		1	0						ш		単			
り 身 しょうしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かいしゅう しゅうしゅう しゅう	≠	学習過程の心理学	1	講義		_	必	必		1		_			0		$\vdash \vdash$					
育 磷	林	特別な教育的ニーズの理解とその支援 教育相談	1	講義講義		_	必必	必必		1					0		0		位			
果	L	教育 相談 総合的な学習の時間・特別活動の指導法	2	講義		_	业业	业业		1						0						
星		生徒指導・進路指導	2	講義		_	必必	必		1					0							
		道徳の理論と指導法	2	講義			必	必		2					0							
		教育実習·実習指導	5	実習	190	選	必	必									0					
	[教職実践演習(小·中)	2	演習		選		必		2							ш	0				
	ļ	国語 答案	2	講義			選必▽	必		1		0					$\vdash \vdash$					
		算数 生活	2	講義		_	選必▽			1		-		0			$\vdash\vdash$					
		生活 小学校音楽	2	講義講義			選必▽			1		0			0		$\vdash\vdash$					
		図画工作	2	講義			_			1		0										
		小学校体育	2	講義			選必▽			1		Ö										
		社会	2	講義		_	選必▽			1		Ŏ										
	. [理科	2	講義		_	選必▽			1					0							
/]		家庭	2	講義		_	選必▽			1			0				ш					
学	7	外国語	2	講義	30	_	選必▽			1			0				\sqcup					
1 1	X	国語科指導法 I 国語科指導法 II	2	講義講義	30	_	必必	必必		2			0	0			$\vdash \vdash$					
杉			/.			_	必必	必		2				0			$\vdash\vdash$		1			
杉 杉	4			謙美	30																	
杉	\$ 目	社会科指導法	2	講義		_	_							0	\cap		\vdash					
杉 科	斗 目			講義	30	選	_			2 2					0	0						
N	計劃	社会科指導法 算数科指導法	2		30 30	選選	必			2					0	0						

#1 F	区分	授業科目		授業			必修	•選択		分			ř	学年・学	期配≦	<u></u>			卒業に必	
177 6	167	女 未 符 日	位	方法	間	卒業	小	中	特	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単位	数量
		図画工作科指導法	2	講義	30	選	必			1			0							
		家庭科指導法	2	講義	30	選	必			1				0						
		体育科指導法	2	講義	30	選	必			2				0						
		外国語の指導法	2	講義	30	選	必			1						0				
		日本語学概論	2	講義	30	選		必		1	0								26	
		日本語文法	2	講義	30	必		必		1		0							単	
		日本語表現論	2	講義	30	選		必		1	0									
	中	日本古典文学概説 I	2	講義	30	選		必		1					0				位	
	学	日本古典文学概説Ⅱ	2	講義	30	選		必		1						0				
	校	近現代文学概説 I	2	講義	30	選		必		1					0					
続	科	近現代文学概説Ⅱ	2	講義	30	選		必		1						0				
き	目	漢文学	2	講義	30	選		必		1			0							
<u>ر</u>		書道	2	講義	30	選		必		1			0							
専		国語科指導法Ⅲ	2	講義	30	選		必		1				0						
門		国語科指導法IV	2	講義	30	選		必		1					0					
教		障害者教育総論	2	講義	30	必			必	1	0									
双		知的障害者教育総論	2	講義	30	選			必	1		0								
育		視覚障害教育総論	1	講義	15	選			必	1		0								
課	特	聴覚障害教育総論	1	講義	15	選			必	1		0								
程	別	特別支援学校教育課程論	2	講義	30	選			必	1			0							
	支	LD等教育総論	2	講義	30	必			必	1			0							
	援	重複障害教育総論	1	講義	15	選			必	1				0						
	学	知的障害者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1				0						
	校	肢体不自由者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1					0					
	科	病弱者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1					0					
		知的障害者の指導法	2	講義	30	選			必	1					0					
		肢体不自由者の指導法	2	講義	30	選			必	1						0				
		病弱者の指導法	2	講義	30	選			必	1						0				
		特別支援学校教育実習·実習指導	3	実習	120	選			必								0	0		[98単
																				[126単

白梅学園大学納付金

(単位:円)

費目	子ども学部
入 学 金	250,000
施 設 費	300,000
授業料	750,000
教育充実費	95,000
合 計	1,395,000

分納の場合

入学手続時	972,500
9 月	422,500

2年次納付金	1,145,000
3年次納付金	1,145,000
4年次納付金	1,145,000

休学時在籍料

在籍料(半期)	75,000
---------	--------

修学年限を超えて在籍する場合は、学費の全額とする。ただし履修する授業の合計単位数が前・後期あわせて16単位以下の場合は下記とする。

在籍料(半期)	75,000
左籍判し帰修する授業利	日の利日屋修料(護姜・宝羽・滨羽久利)

在籍料と履修する授業科目の科目履修料(講義・実習・演習各科目1単位あたり15,000円)の合計額とする。

入学検定料	35,000
-------	--------

再入学者の学費は、再入学する年度の新入生と同額とする。ただし、入学金は免除する。

変更事項を記載した書類

〔改正理由〕

1.令和6年4月の白梅学園大学子ども学部子ども心理学科、教育学科の設置に伴い、学則の改正を行う。

〔改正内容〕

学則本文

・学則本文 第3条、第44条の改訂及び附則追加。

学則別表1

・子ども学部子ども心理学科及び教育学科カリキュラム表の追加。

〔施行期日〕

令和6年4月1日

新旧比較対照表

新	学 則	現 行 学 則	備考
(学部等)		(
第3条 本学に子ども学部を置き、学科ならびにその学生定	、学科ならびにその学生定員は、次	第3条 本学に子ども学部を置き、学科ならびにその学生定員は、次	
のとおりとする。		のとおりとする。	
学部名	入学定員 編入学定員 収容定員	子ども学科 入学定員 135 人	
子ども学部子ども学科	120名 3年次 6名 492名	3年次編入定員10人	
家族・地域支援学科	40名 3年次 2名 164名	収容定員 560 人	
子ども心理学科	40名 3年次 2名 164名	発達臨床学科 入学定員 50 人	
教育学科	50名 3年次 2名 204名	3年次編入定員10人	
		収容定員 220 人	
		家族·地域支援学科 入学定員 40	
		3年次編入定員10人	
		収容定員 180 人	
(学位授与)		(寺科科寺)	
第44条 本学を卒業した者に、次の学士の学位を授与する。	代の学士の学位を授与する。	第44条 本学を卒業した者に、次の学士の学位を授与する。	
子ども学科 学士 (子ども学)		子ども学科 学士 (子ども学)	
家族・地域支援学科。学士(子ども学)	ども学)	発達臨床学科 学士 (発達臨床学)	
子ども心理学科 学士 (子ども学)	(法)	家族・地域支援学科 学士 (子ども学)	
教育学科 学士(教育学)			
<u>M村則</u>			
1. この学則は、令和6年4月1日から施行する。	から施行する。		
2. 第3条、第44条及び別表1、別表2は、合和6年度入学生に適用	J表2は、合和6年度入学生に適用し、		
それ以前の入学生は従前の学則を適用する。	を適用する。		

別表1 白梅学園大学 子ども学部 子ども心理学科カリキュラム

科目区分	授 業 科 目	単	授業	時	业	修∙逞	【択	分					単期配当					必要な	Į.	備	老	
		位	方法	間	卒業	保	幼	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単位	立数		7)用	万	
外	国語 I A	1	演習				選必	10	0													
外一外	国語 I B	1	演習				選必	10		0									1			
	国語ⅡA	1	演習				選必	10			0								1			
	国語IIB	1	演習		必	選必		10				0							1			
	ポーツと健康A	1	実技	_	必	必必	必	7	0			Ť							1			
	パーンと健康B	1	講義	_	必必	必必	必必	2		0		-							1			
	ゕーノと健康B 報処理	2	神 我		必必	必必	必必	6	0			<u> </u>							1			
		_				业	业	_	0													
	ータサイエンス	2	講義	_	必			2	_		0											
	ューマニズム論基礎	2	講義	_	必			2	0													
	ューマニズム論発展	2	講義	_	選			1				0										
マ目	本国憲法	2	講義	30	選		必	2			0											
二 日	本文化論	2	講義	30	選			1	0													
ズ多	文化理解	2	講義	30	選			1		0												
教 五 海	外教育福祉演習	2	演習	30				1	0													
愛 17	域子育て支援演習	2	演習		選			1	0								2	28				
X ±5.	学と思想	2	講義	_	選			1				0					É	.U 道				
1 基 🕁	<u> うとんだっ</u> 学とメディア	2	講義					1			0						ſ	单 立				
果 幹 스	チングノイグ 間社会と歴史学	2					1	1									'	_	1			
			講義		_	-	1	_	-	0	-	-							1			
	界の芸術	2	講義	_	選	-	-	1	-	0	-	-							1			
	間社会と数学	2	講義	_	_			1		0	_								1			
— 於 ^來	境と生物	2	講義	_	選			1			0								1			
B 生	活と化学	2	講義		選			1				0							1			
地	球と科学	2	講義	30	選			1	0										1			
 ジョ	ェンダーと社会学	2	講義		選			1				0							1			
基 沿	費社会における経済学	2	講義		選			1			0								1			
무구 나나	域社会における地理学	2	講義	_	_			1	0										1			
	活の中の政治	2	講義					1	\vdash	0												
541	低の下の政府 養基礎演習A	1	演習		必	必	 	17	0		<u> </u>	<u> </u>							1			
			_	_		_	1	_											1			
	養基礎演習B	1	演習		必	必	-	17	-	0		-							1			
	養発展演習A	1	演習		必	必	-	13			0	_							1			F
1/.	養発展演習B	1	演習		必	必		13				0										[28
	代子ども学	2	_	30	_	選必##	必	1	0									専	1			
	理学概論	2	講義		必		<u></u>	1	0									門	1			
発達	達心理学	2	講義	30	必	必	必	1	0									<i>≯/</i> ⊢	1			
	床心理学概論	2	講義		必			1		0								教育	1			
	会心理学概論	2	講義	_	必			1			0							育	1			
	育•学校心理学	2	講義	_	必		必	1				0						課	1			
18	害者教育総論	2	講義	_	選	選必##		1	0								00	和	1			
+ 1+		2	講義		_	~55.9E)##	1	_		 	_						20	圧	1			
車 心 小	神医学		_	_			-	1	-	_		0					単位	課程全体	1			
明 理 心	理学研究法 理学统制法	2	講義	_	必	-	-	1		0	_	-					台	体	1			
44 科 心	理学統計法	2	講義		必		-	2			0	_					1.7	か	1			
等 日 心	理学実験		演習					4				0							1			
里 心:	理面接法	2		30		_	選必※	_					0					ら	1			
望 L (1):	理的アセスメント	2		30		選必##	選必※	1						0					1			
一 心	理学質問紙法	2	演習	30	選			1	L				0					1	1			
心	理学質的方法	2	演習	30	選			1						0					1			
	理学英文講読	2		30				1						0				6	1			
	門ゼミナール I A	1		30				5					0					1	1			
	門ゼミナール I B	1		30				5						0			8	単	1			
科士市	門ゼミナールⅡA	1	演習		_		 	5							0			位	1			
目门	門ゼミナールⅡB	_			_		\vdash	5 5		-		-			J		単位	111	1			
		1	(典省	30	必	-	-	Б	-	_		-				0	11/		1			
+	業論文	4	346-37	0.0	必	١.	\ \.	_	<u> </u>	_					0	0		1	1			
	育原理	2	講義	_	選	必	必	1		0									1			
	育原理	2	_	30	_	必	選必※	1	0										1			
	育者論	2	講義			必	必	1					0						1			
保	育の特別支援	2	演習	30	選	必	必	1	L	L	0	L	L						1			
	育•教育課程論	2	講義			必	必	1			0								1			
	育内容健康	1	_	15		必	必	1		0									1			
	育内容人間関係	1	演習	_		必	必	1		Ť	0								1			
	育内容環境	1	演習	_		必	必	1		0									1			
	有内容言葉	1	演習	_	_	必必	必必	1			0								1			
								_											1			
	育内容表現 	1		15		必	必	1		0									1			
	育内容総論	1		30		必	必	1	0										1			
	育指導法	2	演習	_		必	必	1					0						1			
	康の指導法	2	_	30	_	必	必	1					0						1			
人	間関係の指導法	2	演習	30	選	必	必	1				0							1			
	境の指導法	2		30	選	必	必	1				0							1			
	葉の指導法	2		30		必	必	1					0						1			
	現の指導法 I (音楽A)		演習			必	必	2			0		-						1			
	現の指導法Ⅱ(音楽B)	_	演習			必必	必必	12			0								1			
			_	_															1			
	現の指導法Ⅲ(造形表現)	1	演習			必	必	1	-		0								1			
	育の方法	2	講義	_	_		必	1						0			4		1			
	ども理解の理論と方法	1		15		必	必	1						0			4		1			
	ども家庭支援の心理学	2	講義	30	選	必	選必※	1					. Т	0		Ī	0	1	1			

£1 F	区分	授 業 科 目	単	授業		必	修•選	択	分				学年・学	≠期配当	á			卒業に	必要な	備考
17+12 	卢 刀	女 未 件 日	位	方法	間	卒業	保	幼	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単作	立数	1佣 有
		保育相談支援	1	演習	15	選	必	必	1						0			単		
1 1		社会福祉	2	講義	30	選	必		1	0								位		
		子ども家庭福祉	2	講義	30	選	必		1		0							'-		
		社会的養護 I	2	講義		選	必		1			0						i		
		社会的養護Ⅱ	1	演習	15		必		1				0					i		
		子ども家庭支援論	2	講義	30	選	必		1				0							
	/B	子どもの保健	2	講義	30	選	必		1				0					l		
	保 育	子どもの健康と安全	1	演習	30	選	必		1					0				l		名称変更
		子どもの食と栄養論	1	講義	15	_	必必		1			0								147000000000000000000000000000000000000
	· 教	子どもの食と栄養	2	演習	30	選	必必		1			0						ł		
			2	_	30		必必		1				0					-		
	- 1	乳児保育Ⅰ		講義		選	业业						0							
	_	乳児保育Ⅱ	1	演習	15				1					0						
		保育所実習指導I	1	演習	15		必		1				0							
続		保育所実習I	2	実習	90		必						0	_						
き		施設実習指導I	1	演習			必		1					0						
<u> </u>		施設実習I	2	実習			必							0						
専		保育所実習指導Ⅱ	1	演習			選必#		1						0					
門		保育所実習Ⅱ	2	実習	90	選	選必#								0					
教		施設実習指導Ⅱ	1	演習	15	選	選必#		1						0					
育		施設実習Ⅱ	2	実習	90	選	選必#								0					
課		教育実習(幼稚園)	5	実習	190	選		必				0				0				
程		保育・教職実践演習(幼稚園)	2	演習	30	選	必	必	3								0			
		知覚•認知心理学	2	講義	30	選		選必※	1		0									
		学習·言語心理学	2	講義	30	選	選必##	選必※	1		0									
		感情•人格心理学	2	講義	30	選			1			0						1		
		神経・生理心理学	2	講義	30	選			1				0					1		
	心	司法·犯罪心理学	2	講義					1					0				i		
	理	産業・組織心理学	2	講義	30	選			1						0			14		
	発	インクルーシブ保育A(アセスメントと個別計画)	1	演習	15	選必*	選必##		1					0						*9科目から6科目選択必修
	展	インクルーシブ保育B(ユニバーサル環境と教材)	1	演習	15		選必##		1						0			単		
	科	インクルーシブ保育C(実践臨床と保護者支援)	1	演習	15	_	選必##		1							0		位		
	目	ライフコース心理学A(家族臨床)	1		15		選必##		1				0							
		ライフコース心理学B(ジェンダー)	1	演習	15		選必##		1					0						
		ライフコース心理学C(コミュニケーション)	1	演習	15 15		選必##	_	1	-					0			-		
		赤ちゃん学A(胎児健康心理学) 赤ちゃん学B(社会情動発達学)	1	演習	15	_	選必##		1	-				0	0					
		赤ちゃん学C(子ども環境心理学)	1	演習	15		選必##		1							0		1		[98単位
\vdash		かり、ルテい、100米売で生子)	1	IN H	10	VSE NO.	-E-45-777		_ +											[126単位

別表1 白梅学園大学 子ども学部 教育学科カリキュラム

引表1	白梅学園大学 子ども学				科	<u>カリ</u>	<u>+-</u>	レラュ	4											サ和り十分	(1-X1/12/11
科目区分	授業科目		授業 方法	時間	卒業		·選択 中	特	分割	1前	1後	2前		^{丝期配} ≌ 3前		4前	4後	卒業に 単位		備	考
	外国語IA	1	演習	30	必	_			10	0											
外国語	外国語IB	1	演習		-	_			10		0										
7.1	外国語ⅡA	1	演習		-	選必			10			0									
-	外国語ⅡB	1	演習		-	選必	_		10				0								
体育		1	実技		_	必	必		7	0											
	スポーツと健康B 情報処理	2	講義		-	必	必		2		0										
情報		2	講義	30	_	必	必		6	0		0									
E	ヒューマニズム論基礎	2	講義		-				2	0											
ュ	ヒューマニズム論発展	2	講義		_				1				0								
 	日本国憲法	2	講義		+	必	必		2			0	0								
	日本文化論	2	講義		_	1			1	0		Ť									
ズ	多文化理解	2	講義		+				1		0										
教 ム	海外教育福祉演習	2	演習		選				1	0											
段 一 一	地域子育て支援演習	2	演習	30	選				1	0								28	3		
汉	哲学と思想	2	講義	30	選				1				0					単	<u>í</u>		
育 基 課 幹	义子とメナイノ	2	講義	30	選				1			0						位	Ī.		
宝 A	人間社会と歴史学	2	講義	30	選				1		0										
	世界の芸術	2	講義	30	_				1		0										
基	人間社会と数学	2	講義		-				1		0	_									
幹	現現と生物	2	講義		_	-			1			0									
B	生活と化学	2	講義		_				1				0								
-	地球と科学	2	講義		-	-			1	0											
基	ジェンダーと社会学	2	講義						1		-		0								
幹	有負性云にわりる経済子	2	講義			-			1			0									
С	地域社会における地理学	2	講義		_				1	0											
	生活の中の政治	2	講義		-	-			1 17		0							+			
教	教養基礎演習A		演習		-					0											
養演	教養基礎演習B 教養発展演習A	1	演習		+				17 13		0										
習	教養発展演習B	1	演習	30	必必				13			0	0					ł			[28単
+-	現代子ども学	2	講義		_	選	選		13	0			0					l	由		[20年
	子ども期の学び	2	講義			選	124		1			0							専		
	学校フィールドワーク	2	演習			選	選		1		0	Ŭ							門		
基	コミュニティと教育	2	講義			選	選		1				0					14	教		
幹		2	講義	30	_	選	選		1			0						単	育		
科	学校と教育の歴史	2	講義	30	_	選	選		1				0					位	課		
目	現代教育の基本問題	2	講義	30	_	選	選		1					0				111	程		
	自然科学野外実習 学校·学級経営論	2	演習講義	30	_	選必	選必		1			0			0					集中	
	特別支援教育特講	2	講義		_	_	選	必	1								0		全	未宁	
ゼ	j 専門ゼミナール I A	1	演習			~~	~~	7	6					0			0		体		
- 1 €	専門ゼミナールIB	1	演習						6						0			8	か		
骨さ	- 専門セミナールⅡA	1	演習						6							0		単	ら		
'	専門ゼミナールⅡB	1	演習	30	必				6								0	位	34		
<i>1</i> 2	レ 卒業論文 教職概論	4	5#± 3/2		必	3/	21									0	0		単		
	教育原理	2	講義講義	30	必必	必必	必必		1	0	0							ł	位		
	教育の社会制度論	2	講義		_	必必	必必		1						0				177		
	教育課程論	2	講義	30		必	必		1		0				Ť						
	教育の方法	2	講義	30	選	必	必		1					0							
専 教	情報通信技術活用の理論と方法	2	講義			必	必		1				0					16			
門 職	光 達心理子	2	講義			必	必		1	0				_				単			
数 基	子省適程の心理子	1	講義		_	必必	必必		1					0				位			
育 礎		2	講義講義		_	业业	必必		1					0		0		177			
课	総合的な学習の時間・特別活動の指導法	2	講義		_	必必	必必		1						0						
呈	生徒指導·進路指導	2	講義		_	必	必		1					0	Ť						
	道徳の理論と指導法	2	講義	30	選	必	必		2					Ō							
	教育実習·実習指導	5	実習			必	必		$\overline{}$							0					
-	教職実践演習(小・中)	2	演習		選	_	必		2								0				
	国語 算数	2	講義講義			選必▽	必		1		0		0								
	生活	2	講義		_	_			1					0							
	小学校音楽	2	講義			選必▽			1		0										
	図画工作	2	講義			_			1		Ö	L									
	小学校体育	2	講義	30	選	選必▽			1		0										
	社会	2	講義		_	選必▽			1		0			_							
ds	理科	2	講義		_	選必▽			1					0							
小学	24-02	2	講義		_	選必▽			1			0									
1 5	外国語 国語科指導法 I	2	講義講義	30		選心〉	必		2		-	0									
林		2	講義	30	_		必必		2				0								
校科	国治科有學法		MIT TX		_	必	~ <u>.</u>		2	-			0					1	1	1	
校 科 目	国語科指導法 II 社会科指導法	2	講義	30	選	业		l .			l										
科	社会科指導法 算数科指導法		講義 講義			_			2					0							
科	社会科指導法 算数科指導法 理科指導法	2 2 2	講義 講義	30 30	選選	必必			2				0	0	0						
科	社会科指導法 算数科指導法	2 2 2 2	講義	30 30 30	選選	必			2			0		0	0						

#1 F	区分	授業科目		授業			必修	•選択		分			ř	学年・学	期配	<u></u>			卒業に必	
177 6	167	技 未 符 日	位	方法	間	卒業	小	中	特	割	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	単位	数量为
		図画工作科指導法	2	講義	30	選	必			1			0							
		家庭科指導法	2	講義	30	選	必			1				0						
		体育科指導法	2	講義	30	選	必			2				0					26	
		外国語の指導法	2	講義	30	選	必			1						0				
		日本語学概論	2	講義	30	選		必		1	0									
		日本語文法	2	講義	30	必		必		1		0							単	
		日本語表現論	2	講義	30	選		必		1	0									
	中	日本古典文学概説 I	2	講義	30	選		必		1					0				位	
	学	日本古典文学概説Ⅱ	2	講義	30	選		必		1						0				
	校	近現代文学概説 I	2	講義	30	選		必		1					0					
続		近現代文学概説Ⅱ	2	講義	30	選		必		1						0				
き		漢文学	2	講義	30	選		必		1			0							
		書道	2	講義	30	選		必		1			0							
専		国語科指導法Ⅲ	2	講義	30	選		必		1				0						
門		国語科指導法IV	2	講義	30	選		必		1					0					
教		障害者教育総論	2	講義	30	必			必	1	0									
双		知的障害者教育総論	2	講義	30	選			必	1		0								
育		視覚障害教育総論	1	講義	15	選			必	1		0								
課	特	聴覚障害教育総論	1	講義	15	選			必	1		0								
程	別	特別支援学校教育課程論	2	講義	30	選			必	1			0							
	支	LD等教育総論	2	講義	30	必			必	1			0							
	援	重複障害教育総論	1	講義	15	選			必	1				0						
	学	知的障害者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1				0						
	校	肢体不自由者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1					0					
	科	病弱者の心理・病理・生理	2	講義	30	選			必	1					0]	
		知的障害者の指導法	2	講義	30	選			必	1					0					
		肢体不自由者の指導法	2	講義	30	選			必	1						0				
		病弱者の指導法	2	講義	30	選			必	1						0				
		特別支援学校教育実習·実習指導	3	実習	120	選			必		1						0	0		[98単
																				[126肆

学則の変更趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更	[(収容定員変更)	の内容	• • •	• p.2
イ.学則変更	〔(収容定員変更)	の必要性		• p.3
ウ. 学則変更	〔(収容定員変更)	に伴う教育課程等の変更内容	• • •	• p.5
(1) 教育課	程			• р.5
(2) 教育の	方法及び履修指導	拿 方法	• • •	• p.8
(3) 教育組	l織		• • •	• p.8
(4) 大学全	体の施設設備			• p.8

ア. 学則変更(収容定員)の変更内容

令和6年度入学生より、子ども学部発達臨床学科を廃止し、子ども学科並びに発達臨床学科を基礎とする教育課程を発展的に改組して、子ども心理学科及び教育学科を設置する。それに伴い、白梅学園大学学則第3条に定める、子ども学部の入学定員及び収容定員について下記の通り変更する。学科設置に関わる組織の移行表通り収容定員を変更する。

なお子ども学部子ども心理学科及び教育学科の設置については、令和 5 年 4 月に別途設置の届出を行う。

学部)		現行			変更後		差			
部	学科	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
	子ども学科	135	10	560	<u>120</u>	<u>6</u>	<u>492</u>	Δ15	$\triangle 4$	Δ68	
子	家族・地域支援 学科	40	10	180	40	<u>2</u>	<u>164</u>	0	Δ8	Δ16	
子ども学部	子ども心理学科	I	1	I	<u>40</u>	<u>2</u>	<u>164</u>	40	2	164	
部	教育学科	_	_	_	<u>50</u>	<u>2</u>	<u>204</u>	50	2	204	
	発達臨床学科 (※1)	50	10	220	I	_	I	△50	Δ10	Δ220	
計		225	30	960	<u>250</u>	<u>12</u>	1024	25	Δ18	64	

^{※1} 令和6年度募集停止(令和8年度編入学者募集停止)予定

【参考】※令和6年度入学生より定員減予定

白梅学園大学大学院

		現	行	変見		差		
学科		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	
子ども学 研究科	子ども学専攻 修士課程	15	30	5	10	Δ10	Δ20	
研究科	子ども学専攻 博士課程	7	21	2	6	Δ5	△15	
計		22	51	7	16	Δ15	∆35	

白梅学園短期大学

	現	行	変見	更後	差		
学科	入学	収容	入学	収容	入学	収容	
	定員	定員	定員	定員	定員	定員	
保育科	95	190	80	160	△15	△30	
計	95	190	80	160	△15	∆30	

イ. 学則変更(収容定員変更)の必要性

白梅学園大学は、2005 (平成 17) 年に4年制大学として白梅学園大学子ども学科を開設した。大学設置以前より併設の白梅学園短期大学は1957 (昭和 32) 年に開学し、当初より保育科を擁し、保育学を中心として、子どもに関係する専門職を長年にわたり輩出してきている。その知見を活かし令和5年度は、大学1学部3学科収容定員960名、大学院1研究科収容定員51名と子ども学の総合大学に発展してきた。

学則において、教育の目的および建学の精神について、本学は「人間尊重・ヒューマニズムの建学の精神を基に、教育基本法に則って教育研究に従事し、人類の幸福、文化の向上及び社会の発展に寄与する研究成果ならびに優れた人材を生み出すことを目的とする」(大学学則第1条)と定めている。

本学は建学以来、この「ヒューマニズムの精神」を基軸として、子ども学を中心とした研究の深化と教育の充実および発展、社会貢献に尽力してきた。そうした社会貢献の一環として、本学では保育、教育、福祉等の領域における、最新の知見に基づいた専門性の高い知識と技能を身につけた人材を地域へと還元し、建学の精神である「ヒューマニズムの精神」を体得した有為な人材を社会に輩出することを使命としている。

白梅学園大学は、2005 年(平成 17 年)に子ども学部子ども学科を開設し、子ども学の専門的研究と教育を追究するとともに、保育士・幼稚園教諭、小学校教諭の養成に力を注いできた。またこれらの成果を踏まえ、主として発達臨床学の知見を積極的に取り入れた、発達、障害、支援をキーワードとする子ども学部発達臨床学科、子どもが育つ場である家族と地域社会が抱える課題へのアプローチを可能とする子ども学部家族・地域支援学科を擁して、①保育、教育を基礎とする分野、②発達、障害、支援を基礎とする分野、③子どもの育ちと生活をトータルに把握し支える分野、を網羅し、子ども学全体の深化と発展を担い、相応する人材を輩出してきた。

令和5年4月に設立されるこども家庭庁の設立趣旨「こども(心身の発達の過程にある者をいう。以下同じ。)が自立した個人としてひとしく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子育てにおける家庭の役割の重要性を踏まえつつ、こどもの視点に立って、こどもの年齢及び発達の程度に応じて、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本とし、こども及びこどものある家庭の福祉の増進及び保健の向上その他のこどもの健やかな成長及びこどものある家庭における子育てに対する支援並びにこどもの権利利益の擁護に関する事務を行う(以下省略)」にある通り、子どもの発達過程を尊重し、子どもと家庭の支援が社会にとって重要な課題となっている。

本学子ども学部のこれまでの研究・教育成果を基礎に複雑で多様化した社会、子どもの育ち、成長を支援するための知識や技術が高度化されている社会的背景の中で、子ども心理学科において生涯にわたる人間の心理発達への理解を深め、子どもだけでなく保護者も含めた家族や、保育・幼児教育の現場での心理的教育的支援活動を行う高度専門性を持った人材、教育学科では特に学校教育(初等教育・前期中等教育・特別支援教育)の領域において、新

たな社会の担い手を育成するに必要な知識と技術を体得した人材の輩出が使命となっている。

この間、子ども学部では、進学需要や人材需要への積極的な対応にむけて、設置計画に基づく教育研究の適切な履行に努め、安定的な志願者数と入学者数を確保しており、近年の18歳人口の減少期においても、入学者選抜の機能を十分に果たすことができるだけの状況を維持している。

今後、本学が地域社会に対して使命と役割をより一層果たし、教育・保育分野の進学希望者に対して、より広く教育を受ける機会を提供することで、高い進学需要に応えるとともに、より多くの有為な人材を輩出し、地域社会への人的貢献を果たす必要があると考えている。なお、設置及び学部定員増に際し、同一キャンパスの白梅学園短期大学の入学定員(マイナス15名)、及び大学院の入学定員(修士課程マイナス10名、博士課程マイナス5名)を削減し、施設・設備等その資源の活用を図る。

(1) 卒業後の進路

現状の子ども学部の卒業後の進路は、下記表の通り、大学での学び、取得した免許・資格 を活用する専門職への就職の比率が高い傾向にある。【表1】

【表1】 子ども学部過去3カ年就職状況

(単位:人)

	1	2019 年度		2	2020 年度	Ę	2	2021 年度	
	子ども	発達 臨床	家族• 地域	子ども	発達 臨床	家族• 地域	子ども	発達 臨床	家族• 地域
卒業生数	152	76	43	142	51	37	154	63	24
公立保育・幼稚 園・児童施設	42	11	2	29	5	0	34	11	0
私立保育園	37	17	2	53	25	0	45	11	0
私 立 幼 稚 園 ・ こども園	26	5	0	8	4	0	16	1	0
公立施設	0	0	0	2	0	1	3	3	4
私立施設	9	19	24	13	2	26	26	14	13
公立小学校	11	10	3	16	7	4	15	5	1
公立特別支援学 校	0	2	0	0	1	0	0	4	0
公務 (福祉職・ 行政職)	7	3	5	11	1	2	5	4	3
企業	14	5	2	8	5	3	5	4	0
進学	2	1	0	0	0	0	2	2	0

子ども心理学科において、予想される就職先として、子どもの発達理解や保護者支援の専

門性を持った、保育教諭や保育者、子育て支援、養護施設、障害者支援施設での支援職、公 務員(行政職・福祉職・心理職)での活躍が期待される。子ども心理学科の基礎となる発達 臨床学科においても前述の通り、【表1】のような専門性の高い就職先が多くを占めている。

教育学科において、予想される就職先としては小学校や中学校、義務教育学校、特別支援 学校といった学校教育機関、さらには学童クラブや児童館などの児童厚生施設や児童養護 施設、学習塾といった教育産業など、教育に関わる様々な職種の職業人の育成を通して、地 域の教育活動に貢献することのできる人材を輩出することが期待される。

教育学科の基礎となる現在の子ども学科での小学校教諭1種免許状取得者及び発達臨床 学科での特別支援学校教諭1種免許状取得者は、各自治体での教員採用試験に合格実績が ある。

大学への求人は、保育・福祉施設や幼稚園、教育サービス業界より、下記の【表2】の通り卒業生数350名程度のところ、6倍以上を超す求人票が、本学に直接来ている。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度
私立民間園(公設民営園含む)	800 件	697 件	793 件
私立幼稚園	497 件	413 件	423 件
私立こども園	199 件	191件	196 件

【表 2 】白梅学園大学·白梅学園短期大学求人状況

612件

597件

そのほか、【表1】の通り公務員、一般企業への進路もあり、就職先の確保が見込める。 このことは子ども心理学科及び教育学科における人材養成に関する目的、教育研究上の 目的が特に首都圏における人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであり、収容定員 を増加した場合においても、就職先の確保については十分に見込める。

694 件

ウ. 学則変更(収容定員変更) に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程

私立福祉施設

子ども学部では、従来通り大学教育における目的および現場における人材養成に資するために、教育課程を「教養教育課程」「専門教育課程」の2つに大別する。

大学教育における基礎的な科目として、「教養教育課程」を設定する。「教養教育課程」においては、スポーツや情報処理といった一般的な教養のみならず、人間の理解へと広がる科目を設定している。また、学術情報へのアクセスから主体的な問題設定ができるような科目を設置することで高等教育の学びを深めることを目指している。このような学びを基礎として、いわゆるゼミナールを「専門教育課程」に配置することによって、学生が大学教員の研究や専門性に触れ、主体的に問題解決を行っていく一連の教育課程を構成

[※]大学·短期大学合算数

している。

①教養教育課程については、「外国語」・「体育」・「情報」・「ヒューマニズム科目」・「基幹 A」「基幹 B」・「基幹 C」・「教養演習」科目群を体系的に履修することにより、各学科の 専門教育課程における学びと合わせ、学問領域を横断的に学修し、学際的視点を持って、 子ども学部としてのディプロマ・ポリシーの達成を目指す教育課程としている。

従来通り子ども学部として開設しており、入学定員が増加しても時間割の工夫を図るとともに人数制限が必要になる科目は、学科を分けたコマを設定することにより教育の質を低下することなく、教育水準を維持できる。

②-1 届出により設置する子ども学部子ども心理学科の教育目標は下記の通りである。

「心理学の知見を基礎として、乳幼児期から成人期に至る長い期間の発達について理解を深め、そこで生じる諸問題への心理的教育的なアプローチの仕方を学び、心理的援助を必要とする人々や発達において困難を抱えた人々を理解し、支援できる専門性を身につける教育を行う。」

この目標に基づきディプロマ・ポリシーを下記のように掲げている。

- ・生涯にわたる人間の心理発達について理解し、確かな知識を身につける。
- ・発達をめぐる課題に対し、心理学の知見に基づく自己の考えを持ち、それを表現する ことができる。
- ・心理学的な知見を踏まえた支援の能力を身につけ、子どもに関わる全ての人々との協 働において主体性を発揮できる。

このようなディプロマ・ポリシーの到達を目指すため教育課程については、子ども学部子ども心理学科は子ども学部発達臨床学科の教育課程を基礎として、様々な生育環境の困難さや発達上の課題を抱える子どもやその子どもを取り巻く人々に対して、生涯にわたる心理発達の知見に基づく心理的支援を、主に保育・幼児教育の現場で発揮できる専門性を持った人材の養成を主眼に、専門教育課程に「子ども心理科目」群、「ゼミナール科目」群、「保育・教育科目」群、「心理発展科目」群を配置し学ぶ。特に「心理発展科目」群において現代的な課題に対応できる知識を身につけ、心理的支援の実際について学ぶために、2年次から4年次にかけて選択必修科目として「インクルーシブ保育」「ライフコース心理学」「赤ちゃん学」を9科目配置する。これらの科目は、子ども心理学科の特徴的な科目であり、心理学の最新の知識を学ぶことに加え、子ども学として、これからの保育・幼児教育においても必要不可欠な支援について学ぶことを目指す。

②-2届出により設置する子ども学部教育学科の教育目標は下記の通りである。

「子どもの成長・発達や子どもを取り巻く環境、多様化した学校教育の課題について

理解を深め、初等教育・中等教育・特別支援教育における子どもの豊かな学びを実現するために必要な資質・能力を育成するための専門的な教育を行う。」

この目標に基づきディプロマ・ポリシーを下記のように掲げている。

- ・学校教育における学習指導や生徒指導などについて、確かな知識と技術を習得している。
- ・子どもの心理や多様なニーズに配慮しながら成長や発達を援助することに対して、 教育学の知見に基づく自己の考えを持ち、それを表現し、行動することができる。
- ・学校教員としての使命と倫理を深く自覚し、教員に求められる資質・能力や職務内 容に関する知識、さらには学校教育の理念、制度、運営に関する能力を身につけ、 主体的かつ協働的な行動をもって社会に還元することができる。

このようなディプロマ・ポリシーの到達を目指すため教育課程については、子ども 学部子ども学科の小学校教諭免許課程及び子ども学部発達臨床学科の特別支援学校 教諭免許課程を基礎として、思春期前期までを含めた総合的な理解と教育現場や地 域における学校の理解、教育における課題への理解と実践的な学びを深めるため、専 門教育課程に「基幹科目」群、「ゼミナール科目」群、「教職基礎科目」群、「小学校 科目」群、「中学校科目」群、「特別支援教育科目」群を配置し学ぶ。特に「基幹科目」 群において、早期から教育現場を実際に体験する科目を設定することで後の各科目 への視座を得ることができる工夫として、子どもに関する総合的な理解を促すため に、基幹科目の卒業必修科目として「現代子ども学」「子ども期の学び」を設置する。

「現代子ども学」は子どもに関する広範な知識と問題意識を醸成することで教職に携わる者としての視点を拡げることを目指している。また、「子ども期の学び」を設置することにより、幼児期から児童期への接続、保育と教育の理念的な理解を行う。これは、児童期の教育に携わる教員が、幼児期の子どもの姿を理解することで、子どもを長期的な視点から捉えることができることを目指すものである。

また、教育現場や地域における学校の理解を促すために、卒業必修科目として学校フィールドワーク」「コミュニティと教育」を設置する。「学校フィールドワーク」により、現場での体験を通して教育現場の理解を促すことや教員としての資質を自覚することにつなげていく。特別支援学校教諭を目指さない学生においても、特別支援教育の理解は不可欠であるため、「障害者教育総論」「LD等教育総論」は卒業必修科目として位置づけて、子どもの心理や多様なニーズに応じて教育学的な知見に基づいた考えを持つことにつなげる。

専門教育課程における科目群を体系的に履修することにより、特に、近年の学校教育において重視されている思考力・判断力・表現力を育成するための教育課程、教育内容となるように編成を行っている。加えて、現代の教育における多様なニーズに対応するための科目を「基幹科目」として設定したことや、特別支援教育に関する科目の一部を卒業必修科目として、全学生が複数修得することを必須としたことで、より

現代社会に対応できる人材を養成できる教育課程としている。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更

教育の方法及び履修指導方法については、既存学部・学科と同様の方法とする。

子ども学部子ども心理学科では、演習科目は50名以下、科目の性質により心理学実験 法やゼミナールについては、少人数でのグループや個別指導を想定している。これらの科 目については10名程度を想定しており、配置上、運用上も問題ない。

子ども学部教育学科においても、同様に実技科目や指導法などについて履修者数によりコマを分割するなど工夫を行う予定であり、配置上、運用上も問題ない。

履修指導について、入学時及び各年度始めに全学科共通内容及び学科別にオリエンテーションを実施し、「履修案内」及び履修登録方法について説明会を実施している。4月のオリエンテーション期間に学科教員並びに職員による履修相談の時間を設けるほか、常時教務課において相談を受け付けている。また各学科学年クラス担任制を設けており、個別相談・指導も行いつつ学生が個々の目標に向かい計画的な履修ができるよう、履修指導を行う。

教育方法及び履修指導方法において、既設学科等へ影響を与えることはない。

(3) 教員組織

子ども学部子ども心理学科について、大学設置基準(旧設置基準)に定める学科の教員配置基準の6名に対し、基礎となる子ども学部発達臨床学科より多くの教員を異動し教員体制は教授6名、准教授2名、助教1名の9名の教員体制で構成する予定である。

子ども学部教育学科については、大学設置基準(旧設置基準)に定める学科の教員配置 基準の6名に対し、基礎となる子ども学部子ども学科、発達臨床学科より多くの教員を異 動し教員体制は教授5名、准教授6名、講師1名の12名の教員体制で構成する予定であ る。学科設置に先立ち令和5年度より助教1名枠から、教授職にした1名を採用し教育 の充実を図る予定である。

以上は学科の設置基準上(旧設置基準)の教員数を述べており、学部全体では、ST 比は 22.3 人から 23.8 人と上昇するが、この他に実習指導センター、教職教育・研究センターにおいて実習を指導及び支援する補助教員等を配置しているため、既存の学科等への影響はない。

このことから教育の質を担保する教員組織として、十分対応できる体制と考えている。 収容定員増加後の配置基準(旧設置基準。1学部4学科収容定員1,024名)43名を配置しており、この教員体制が既存学科等に影響を与えることはない。

(4) 大学全体の施設・設備の変更

施設・設備については、白梅学園大学と白梅学園短期大学が共用している。大学の収容

定員増加と同時に短期大学において入学定員 15 名、大学院において入学定員 15 名を減じ、大学、大学院および短期大学あわせての収容定員は 1,201 名から 1,200 名とほぼ変更がないため施設・設備において支障がない。

コロナ禍において、講義室及びICT設備を整備しており、今回の収容定員変更においてもすでに十分に対応できる環境のため、特別な対応は行わないが、今後も教育の継続、発展のため計画的に学習環境の整備、充実を続ける予定である。

(添付資料)

資料1 教育課程の概要

(用紙 日本産業規格A4縦型)

		教 育	課	租	Ē	等		の	() 	概		_{王/へ/} 要	兄恰 /	- /11/	/
(-	アど														
					単位数	ζ	挖	受業形]	態		専任教	数員等	の配置		
-C)	_								実						†
科区	日分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手	
						·			習						
教養教	外	外国語 I A	1前	1				0							兼4
教	玉	外国語 I B	1後	1				0							兼4
育課	語	外国語ⅡA	2前	1				0							兼4
程	体	外国語 I I B スポーツと健康A	2後 1前	1				0	0					<u> </u>	兼4 兼1
	育	スポーツと健康B	1後	1			0								兼1
	情	情報処理	1前	2			0	0							兼1
	報	データサイエンス	2前		2		0								兼1
	۲	ヒューマニズム論基礎	1前	2			0								兼3 オムニバス
	그	ヒューマニズム論発展	2後		2		\circ								兼1
	マ	日本国憲法	2前		2		0								兼1
	=	日本文化論	1前		2		0								兼1
	ニズム	多文化理解	1後		2		0								兼1
	科	海外教育福祉演習	1前		2			0							兼2 共同
	目	地域子育て支援演習	1前後		2			0		1					兼5 オムニバス
	基	哲学と思想	2後		2		0								兼1
	基 幹	文学とメディア 人間社会と歴史学	2前		2 2		0								兼1 兼1
	Α	世界の芸術	1後 1後		2		0			1					兼1
		人間社会と数学	1後		2		0			1					兼1
	基幹	環境と生物	2前		2		0								兼1
	幹 B	生活と化学	2後		2		0								兼1
	Ь	地球と科学	1前		2		0								兼1
		ジェンダーと社会学	2後		2		0								兼1
	基幹	消費社会における経済学	2前		2		\circ								兼1
	C C	地域社会における地理学	1前		2		\circ								兼1
		生活の中の政治	1後		2		0								兼1
	教	教養基礎演習A	1前	1				0		2	1				
	養	教養基礎演習B	1後	1				0		2	1				
	演習	教養発展演習A	2前	1				0		1	1				
		教養発展演習B	2後	1				0		2	0				2600
声	ユ	小計 (31科目) 1月 (4 7 13) (2)	1 1	14	38	0		<u> </u>	ı	5	2	0	0	0	兼29
専門教育	子ども	現代子ども学 心理学概論	1前 1前	2 2			0			1					兼4 オムニバス 兼1
教	\$	心理子慨論 発達心理学	1前	2			0			1	1				ボ1
育課	心理	臨床心理学概論	1制	2			0			1 1	1				兼1 オムニバス
程	科	社会心理学概論	2前	2			0			1					承1
	目	教育•学校心理学	2後	2			0			1	1				
		障害者教育総論	1前		2		0				^				兼1
		精神医学	2後		2		0								兼1
		心理学研究法	1後	2			0			1					
		心理学統計法	2前	2			0			1					
		心理学実験	2後	4				0		2	1				共同
		心理面接法	3前		2			0					1		兼1 オムニバス
		心理的アセスメント	3後		2			0		1					兼1 共同
		心理学質問紙法	3前		2			0		1				l	l
		心理学質的方法	3後		2			0							兼1
		心理学英文講読	3後		2			0		1					

(用紙 日本産業規格A4縦型)

		 課	—— 程	<u> </u>	—— 等		の	(用	概	<u>日本</u> 。	生来5 要	76/11 F	1 计机	土/
(フじ		<u> </u>	73	-	ন				11476	•	<u> </u>			
(子と	も学部子ども心理学科) T			単位数	<i>'</i>	ŧ	受業形]	能		南红茅	#吕华/	の配置		I
				半仏多	I	10	(未//)	実		守江至	() 具守(
科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助	備考
区分			修	択	由	義	習	宇	授	教 授	師	教	手	
			115	<i>D</i> C	Щ	报	П	実 習	12	JX	ын	47	,	
ゼミナ	専門ゼミナールIA	3前	1				0		5	2				
 +	専門ゼミナールIB	3後	1				0		5	2				
ルル	専門ゼミナールⅡA 専門ゼミナールⅡB	4前	1				0		5	2				
科目	卒業論文	4後 4前後	1 4				0		5 5	2 2				
保	教育原理	1後	1	2		0			1					
育	保育原理	1前		2		0								兼1
教	保育者論	3前		2		0				1				
育	保育の特別支援	2前		2			0							兼1
科目	保育·教育課程論	2前		2		0								兼1
	保育内容健康	1後		1			0							兼1
	保育内容人間関係	2前		1			0		1	١.				→
	保育内容環境 保育内容言葉	1後 2前		1 1			0			1				兼1 オムニバス 兼1
	保育内容表現	1後		1			0		1					兼1 オムニバス
	保育内容総論	1前		1			0		1	1				AKI
	保育指導法	3前		2			0			-				兼1
	健康の指導法	3前		2			0							兼1
	人間関係の指導法	2後		2			0		1					
	環境の指導法	2後		2			0			1				
	言葉の指導法	3前		2			0							兼1
	表現の指導法I(音楽A)	2前		0.5			0							兼1
	表現の指導法Ⅱ(音楽B) 表現の指導法Ⅲ(造形表現)	2前 2前		0.5			0		1					兼1
	教育の方法	3後		1 2		0			1					兼1
	子ども理解の理論と方法	3後		1			0		1					NK1
	子ども家庭支援の心理学	3後		2		0								兼1
	保育相談支援	3後		1			0		1					
	社会福祉	1前		2		\circ								兼1
	子ども家庭福祉	1後		2		0								兼1
	社会的養護 I	2前		2		0								兼1
	社会的養護Ⅱ	2後		1			0							兼1
	子ども家庭支援論 子どもの保健	2後 2後		2 2		0								兼1 兼1
	子どもの健康と安全	3前		1			0							兼2 共同
	子どもの食と栄養論	2前		1		0								兼1
	子どもの食と栄養	2後		2			0							兼1
	乳児保育 I	2後		2		\circ								兼1
	乳児保育Ⅱ	3前		1			0							兼1
	保育所実習指導I	2後		1			0		1	1				共同
	保育所実習I	2後		2				0	1	1				共同
	施設実習指導 I	3前		1			0		2					共同
	施設実習 I 保育所実習指導 II	3前 3後		2 1			0	0	2 1	1				共同 共同
	休月別美首拍得 II 保育所実習 II	3後		2				0	1	1				共同
	施設実習指導Ⅱ	3後		1			0		2					共同
	施設実習Ⅱ 施設実習Ⅱ	3後		2				0	2					共同
	教育実習(幼稚園)	2前・4前		5				0	1	1				共同
	保育•教職実践演習(幼稚園)	4後		2			0		2	1				

										(/14				兄俗力	1 ////	<u> </u>
	;	教	育	課	趏	Ē	等		の		概		要			
(子ど	も学部子ども心理	学科)			Ī											•
						単位数	ζ	授	受業形態	態		専任教	数員等(の配置		
科目	ᅜᄼᄱᄼᄭᄆ	a 414		TIVE V	必	選	白	誰	演	実験	教	准	講	助	助	/++- + v
区分	授業科目	の名称		配当年次	业	进	Н	舑	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	•	叙	教	砰	助	助	備考
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
心	知覚•認知心理	学		1後		2		0			1					
理発	学習·言語心理	学		1後		2		0								兼1
展	感情·人格心理												兼1			
科	神経•生理心理	学		2後		2		0			1					
目	司法·犯罪心理			3前		2		0								兼1
	産業・組織心理			3後		2		0								兼1
	インクルーシブ保育A(ア	•	と個別計画)	3前		1			0							兼1
	インクルーシブ保育B(ユニ	環境と教材)	3後		1			0							兼1	
	インクルーシブ保育C(実	践臨床と係	R護者支援)	4前		1			0							兼1
	ライフコース心理	学A(家	族臨床)	2後		1			0		1					
	ライフコース心理			3前		1			0			1				
	ライフコース心理学C			3後		1			0		1					
	赤ちゃん学A(胎			3前		1			0		1					
	赤ちゃん学B(社会			3後		1			0		1					
	赤ちゃん学C(子と			4前		1			0		1	1				
	小計 (80科目)	- 09191	12.1/	_	28	106	0		_		6	2	0	1	0	兼27
	合計 (111科目	∄)		_	42	144			_		6	2	0	1	0	兼54
学	位又は称号 学	士 (子	ども学)		学	位又	は学科	の分	野	教育	学・伊	R育学	関係			
		件	及び	履修	力	i 注	<u>.</u>					授	業期間	引等		
教養教	育課程から28単位」							n 20					, , , , ,	Ė		
	単位以上、ゼミナール科目より8単位、保									1 学年	Eの学	期区分	}		2	期
上、心	理発展科目より14	二、専門教									. ,	-			.,.	
	6単位以上を取得す			/m m i = 1	٠. ،											
	ンクルーシブ保育									1 学其	別の授	業期間	罰		1	5 週
	(ユニバーサル環境 援)、ライフコース															
	ンダー)、ライフコ															
学A(胎	児健康心理学)、赤	学B(社会	情動発達等						1 時阴	艮の授	業時間	引		90) 分	
ども環	境心理学)9科目よ	選択必修	とする。													

(注)

- 1 学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には,授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修 方法を併記すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

		教 育	課	租	Ē	等		の	(用	概		要	兄俗子		,
(-	۲٤	も学部教育学科)													
					単位数	ζ	擅	受業形]	態		専任教	枚員等(の配置		
科	目		#3 Ma be M	Ŋ	選	台	講	演	実験	教	准	講	助	RH.	/+tt-r
区		授業科目の名称	配当年次	必		自					教			助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
教		外国語 I A	1前	1				0	Н						兼4
養教	外国	外国語IB	1後	1				0							兼4
育	語	外国語ⅡA	2前	1				0							兼4
課程		外国語ⅡB	2後	1				0							兼4
住	体	スポーツと健康A	1前	1			_		0						兼1
	育	スポーツと健康B	1後	1			0								兼1
	情報	情報処理	1前	2	0			0							兼1
	ヒ	データサイエンス	2前	2	2		0				1	1			兼1 オムニバス
	ュ	ヒューマニズム論基礎 ヒューマニズム論発展	1前 2後	2	2		0				1 1	1			朮 1 オムニハス
		日本国憲法	2前		2		0				1	1			
	マー	日本文化論	1前		2		0					1			兼1
	ニズ	多文化理解	1後		2		0				1				水1
	ᄉ	海外教育福祉演習	1前		2			0			1				兼1 共同
	科目	地域子育て支援演習	1前後		2			0			1				兼5 オムニバス
	-	哲学と思想	2後		2		0								兼1
	基	文学とメディア	2前		2		0				1				71102
	幹 A	人間社会と歴史学	1後		2		0								兼1
	А	世界の芸術	1後		2		0								兼2 オムニバス
		人間社会と数学	1後		2		0								兼1
	基	環境と生物	2前		2		0								兼1
	幹 B	生活と化学	2後		2		0								兼1
		地球と科学	1前		2		0			1					
		ジェンダーと社会学	2後		2		0				1				
	基幹	消費社会における経済学	2前		2		0								兼1
	C	地域社会における地理学	1前		2		0								兼1
		生活の中の政治	1後		2		0								兼1
	教	教養基礎演習A	1前	1				0		2	1				
	養	■教養基礎演習B	1後	1				0		2					
	演習	教養発展演習A	2前	1				0		2	1				
	Н	教養発展演習B	2後	1				\circ		1	2				
		小計 (31科目)	_	14	38	0		_		5	5	1			兼21
専門	基幹	現代子ども学	1前	2			0				2				兼3 オムニバス
教	幹 科	子ども期の学び	2前	2			0	_							兼1
育	目	学校フィールドワーク	1後	2			_	0		2					共同
課程		コミュニティと教育	2後	2	_		0			1					兼2 オムニバス
,		教育の哲学と思想	2前		2		0								兼1
		学校と教育の歴史	2後		2		0							l	兼1
		現代教育の基本問題	3前		2		0	_		,					兼1
		自然科学野外実習	2前		1			0		1					
		学校•学級経営論 特別支援教育特講	3後 4後		2 2		0			1	1				
	ゼ	特別支援教育特講 専門ゼミナール I A	4俊 3前	1	Z		\cup	0		2	4			-	
	しミナ	専門ゼミナールIB	3削 3後	1				0		2	4			l	
	ナー	専門ゼミナールⅡA	3後 4前	1				0		2	4				
	ル	専門ゼミナールⅡB	4後	1				0		2	4				
	科目	卒業論文	4前後	4				0		2	4				
l l	H	十木咄人	生刊 7久	4	ļ		<u> </u>	\cup			4	Ц	Ц	Ц	

(用紙 日本産業規格A4縦型)

	教育	課	趏	Ē	等		の		概		要			
(子ど	`も学部教育学科)								n					
				単位数	ζ	授	受業形			専任教	数員等(の配置		ļ
科目	 授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
区分			修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手	VII.3 3
			19	J/C	щ	秋	П	習	1,	12	Hila	47	,	
教職	204 194 194 HIII	1後	2			0				1				
其		1前	2			0				1				26.4
礎	教育の社会制度論	3後 1後		2 2		0								兼1 兼1
	教育課程論 教育の方法	1仮 3前		2		0			1					朮1
	教育の方法 情報通信技術活用の理論と方法	2後		2		0			1	1				
	発達心理学	2版 1前		2		0				1				兼2 オムニバス
	学習過程の心理学	3前	1	2		0								兼1
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	3前	1			0			1					NK1
	教育相談	4前	2			0			_					兼1
	総合的な学習の時間・特別活動の指導法	3後	2			0			1					7/10/2
	生徒指導・進路指導	3前	2			0								兼1
	道徳の理論と指導法	3前		2		0				1				
	教育実習・実習指導	4前		5				0	1		1			共同
	教職実践演習(小・中)	4後		2			0		2					
小	国語	1後	2			0			1	1				オムニバス
学校	★ 米L	2後	2			0								兼1
科	11 X-4	3前		2		0			1					
目	小学校音楽	1後		2		0								兼1
	図画工作	1後		2		0								兼1
	小学校体育	1後		2		\circ								兼1
	社会	1後	2			0			1		1			オムニバス
	理科	3前	2			0			1					
	家庭	2前		2		\circ				1				兼1 オムニバス
	外国語	2前	2			\circ				1				
	国語科指導法 I	2前		2		0				1				
	国語科指導法Ⅱ	2後		2		0			1					
	社会科指導法	2後		2		0			1					
	算数科指導法	3前		2		0								兼1
	理科指導法	3後		2		0			1					
	生活科指導法	3後		2		0			1					.,
	音楽科指導法	2前		2		0								兼1
	図画工作科指導法	2前		2		0								兼1
	家庭科指導法	2後		2		0								兼1
	体育科指導法	2後		2		0				١,				兼1
中	外国語の指導法	3後		2		_				1				** 1
学校	日本語学概論 日本語文法	1前 1後		2		0			1					兼1
		1後 1前		2		0			1	1				
科目	日本語表現論 日本古典文学概説 I	3前		2		0				1	1			
	日本古典文字概読Ⅱ日本古典文学概説Ⅲ	3後		2		0					1			
	1 平 5 典 文 子 帆	3前		2		0				1	1			
	近現代文学概説Ⅱ	3後		2		0				1				
	漢文学	2前		2		0				Î	1			
	書道	2前		2		0					1			兼1
	■ □ 国語科指導法 	2後		2		0					1			
	国語科指導法IV	3前		2		0					1			

(用紙 日本産業規格A4 縦型)

		教	育	課	租	Ē	等		の		概		要			
(子	: ٹے	も学部教育学科)														
						単位数	ζ	抒	受業形態	態		専任教	数員等(の配置		
科 E		授業科目の名	公 称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備考
					修	択	由	義	習	実 習	授	授	師	教	手	
		障害者教育総論		1前	2			0			1					
	4	知的障害者教育総		1後		2		\circ				1				
	援	視覚障害教育総論		1後		1		0								兼1
	学	聴覚障害教育総論	ì	1後		1		\circ								兼1
		特別支援学校教育	『課程論	2前		2		\circ			1					
	目	LD等教育総論		2前	2			0				1				
		重複障害教育総論		2後		1		0								兼1
		知的障害者の心理・		2後		2		0				1				
		肢体不自由者の心理		3前		2		\circ								兼1
		病弱者の心理・病理	浬•生理	3前		2		\circ								兼1
		知的障害者の指導		3前		2		\circ				1				
		肢体不自由者の指	i導法	3後		2		0								兼1
		病弱者の指導法		3後		2		\circ								兼1
		特別支援学校教育実	習•実習指導	4前後		3				0	1	2				共同
		小計(76科目)		_	42	106	0		_		4	5	2			兼24
		合計 (108科目)		_	56	144			_		5	5	2			兼50
	学	位又は称号 学士	(教育学)	•	学	位又	は学科	中の分	野	教育	学・倪	· R育学	関係			
	卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法 授業期間等															
本夫	±24-	左細和また 00光片以上	市田地方司	田和山の甘	·本人士/	o - n	1414	体内		1 学年	ミの学	期区分	}		2	期
上、 目、	ゼ 中:	育課程から28単位以上 ミナール科目より8単位 学校科は、特別支援学	立、教職基礎 之校免許科目。	より16単位 より28単位	立以上、	、小:	学校科	+		1 学期	明の授	業期間	引		15	5 週
全体	カン	ら34単位以上、合計12	取得するこ	_ と。					1 時隙	見の授	業時間	引		90) 分	

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

白梅学園大学子ども学部子ども心理学科及び教育学科の 学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生確保の見通しと取り組み状況	• • • p. 2
①入学定員設定の考え方	• • • p. 2
②定員充足の見込み	• • • p. 2
③学生確保に向けた具体的な取り組み状況	• • • p. 8
(2) 人材需要の動向等社会の要請	• • • p. 9
ア. 子ども心理学科	
①人材養成に関する目的	• • • p. 10
②人材需要動向	• • • p. 10
イ. 教育学科	
①人材養成に関する目的	• • • p. 11
②人材需要動向	• • • p. 12

白梅学園大学子ども学部子ども心理学科及び教育学科の 学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通しと取り組み状況

①入学定員設定の考え方

白梅学園大学では建学の理念として「本学は、人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとするヒューマニズムの精神を建学の理想としている。本学はこの建学の理想にもとづき、日本国憲法および教育基本法の精神の実現につとめ、社会の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。」を掲げている。この建学の理念「ヒューマニズムの精神」を基軸として、2005年(平成17年)に子ども学部子ども学科を開設し、子ども学の専門的研究と教育を追究するとともに、保育士・幼稚園教諭、小学校教諭の養成に力を注いできた。またこれらの成果を踏まえ、主として発達臨床学の知見を積極的に取り入れた、発達、障害、支援をキーワードとする子ども学部発達臨床学科、子ども学全体の深化と発展を担い、相応する人材を輩出してきた。

近年の子どもに関わる社会的な環境の変化及び中央教育審議会答申からも個々の子どもの特性や状況に応じ、支援できる高い専門性をもつ人材の輩出が求められており、その要請にこたえられる体制を整える。建学の理念にある「社会の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的」を具現化するためにも子ども学部子ども心理学科及び教育学科の設置を計画した。なお入学定員については、同時に同一キャンパスの白梅学園短期大学の入学定員の削減及び既存学科の入学定員減を行うため、学園全体では320名(大学:225名、短期大学95名)から330名(大学:250名、短期大学80名)の10名増加する計画である。

子ども学部子ども心理学科及び教育学科の定員設定の考え方は基礎学部学科等(子ども学部子ども学科、発達臨床学科)において、後述する志願動向及び令和4年9月に実施した高校生への進学意向調査においても確保ができる見込みである適切な規模として、入学定員を子ども学部子ども心理学科40名、子ども学部教育学科50名と設定した。

また入学定員の設定にあたっては、収容定員変更に併せて行う教育課程や教員組織、校地校舎等の施設、設備その他教育上の諸条件を加味し、教育効果が十分に発揮できる体制と規模を考慮した。教育学科では現状の学生の入学時希望取得免許において小学校教諭1種免許状取得希望者が平均して50名程度おり、そのニーズに応えるべく人数として設定している【表1】。

【表1】 1 年次履修登録時点(4 月)取得希望免許登録数(小学校教諭・特別支援教諭)

子ども学部	2020 年度	2021 年度	2022 年度
小学校教諭 1 種免許状	57 人	50 人	52 人
特別支援学校教諭 1 種免許状	40 人	18 人	17 人

②-1 定員充足の見込み (要となる入学志願者の地域と 18 歳人口動態から)

本学は東京都小平市(東京多摩北部)に位置し、埼玉県からも通学できる立地条件にある。本学入学志願者の出身地域の割合は、2020 年度から2022 年度の3年間の合計で、首都圏(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県)が85.1%と多く、中でも東京都・埼玉県からの入学志願者は全体の80.2%を占める状況となっている。したがって本学の要となる入学志願者の地域は東京都、埼玉県と考えることができる【表2】。(全都道府県別は【資料1】)

【表 2】白梅学園大学 2020 年度~2022 年度 都道府県別志願者数 (※出身高校所在地)

(単位:人)

都道府県			年	度			2年	医合計
10 追加 未	20	20	3 4 5	を口前				
東京都	424	71.0%	439	69.6%	338	73. 8%	1, 202	71. 2%
埼玉県	61	10. 2%	50	7. 9%	40	8. 7%	151	9. 0%
山梨県	19	3. 2%	26	4. 1%	20	4. 4%	65	3. 9%
神奈川県	21	3. 5%	25	4. 0%	10	2. 2%	56	3. 3%
長野県	6	1.0%	16	2. 5%	10	2. 2%	32	1. 9%
新潟県	15	2. 5%	9	1. 4%	3	0. 7%	27	1. 6%
千葉県	10	1. 7%	14	2. 2%	3	0. 7%	27	1. 6%

※高等学校卒業程度認定試験合格者、社会人、外国人留学生の受験生を除く

定員充足の可能性を探るうえで重要となる 18 歳人口動態については、開設年度である 2024 年度は 18 歳人口が全国で 106.3 万人、首都圏は 28.7 万人となり、2022 年度の 18 歳人口を 100 とした指数(以下「指数」と記載)で比較すると、全国では 94.8 ポイント、首都圏では 95.9 ポイント、東京都・埼玉県では 96.4 ポイントとなっている。しかし、本学入学志願者の 80%を占める東京都・埼玉県の指数は、開設翌年度の 2025 年度から完成年度を含めた 2028 年度までの 4年間において 99.9~101.0 ポイントで推移し 2022 年度の規模まで回復する。2029 年度以降は再び 18 歳人口が減少へと転じるものの、2034 年度時点の東京都・埼玉県の指数は 99.0 ポイントで、全国(89.7 ポイント)と比較すると 9.3 ポイントも高い水準となる見込みで、長期的な視点で見ても安定的な募集マーケットであり定員充足に寄与する環境にある【資料 2】。

②-2 定員充足の見込み(大学進学率の推移と学問系統の志願者動向から)

東京都および埼玉県の大学進学率について、過去 10 年間の推移から、その割合は 着 実に高まっている。2013 年度では東京都で 62.1%、埼玉県で 51.3%だったが、2022 年 度には、東京都で 69.8% (+7.7%)、埼玉県で 59.4% (+8.1%) となっている。また、 この 10 年間で東京都・埼玉県の高等学校卒業者 (現役) はあわせて約 6,000 人減少し ているにもかかわらず大学進学率が 8.0%増加し、大学進学者数も増加している。大学 進学率の推移予測に関しても埼玉県の 2024 年推計は現状進学率を上回っているため、 2022 年度と同等の数値と見込まれる。東京都、埼玉ともに現状維持または 2040 年度ま で徐々に上昇が見込まれており、大学進学者のニーズは安定的であると言える【資料 3】。

学科系統の志願動向については、リクルート進学総研のマーケットトレンドデータから、「教育学」は志願倍率 5.0 倍以上を維持していることが分かる。一方、「保育・児童学」については 2008 年以来志願倍率 5.0 倍を下回る結果となっているものの、関連領域として展開する「心理学」は 5.0 倍以上の志願倍率を安定的に維持しているため、志願者を確保する上での補完的役割を果たしている【資料 4】。

以上、本学募集マーケットにおける大学進学率、学科系統の志願倍率状況から、定員 充足を可能とする状況にあると言える。

②-3 定員充足の見込み(高校生および保護者の進路に関する意識から)

定員充足に向けた分析で重要なのは、受験生とそのステークホルダーである保護者の意識である。リクルート進学総研による「高校生と保護者の進路に関する意識調査2021」では、高校生が将来就きたい職業ランキングとして「教師」は2位、「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」が5位となっている。また、本学在学生の8割を占める女子のランキングでは1位は「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」、2位が「教師」であり、本学の進路先の中心となる職業が人気となっている【資料5】。

一方、保護者が子どもに将来就いて欲しい職業については、「教師」「保育士・幼稚園 教諭・幼児保育関連」ともに6位で、まずまずの人気といえる【資料6】。

なお、保護者が子どもに将来就いて欲しい職業の1位は「公務員」となっているが、本学の公務員の実就職率が大学通信調べによる最新のデータでは全国で6位、関東で2位となっている【資料7】。本実績の中心を成すのが地方公務員としての教員・保育士採用であり、高校生と保護者の両方の希望を叶える進路実績をもとに選ばれる大学になることができると考える。

以上のことから東京都、埼玉県を中心とした首都圏エリアを基盤に、定員充足するに 足る学生確保が可能であると考える。また、後述する「受容性調査」の結果等からも、 定員を充足できる見込みである。

②-4 定員を充足する見込み (定員設定の考え方)

子ども学部の学生募集状況は現在堅調に推移しており、過去5年度の入学定員充足率の平均は105.5%となっている【資料8】。

現状で、本学の中核を成す保育・児童学の入学者は安定的に得ることができており、

さらにマーケットトレンドデータ【資料4】による志願倍率が5.0倍以上と安定し、系統別入学志願者の規模の大きい教育系統の学科を設置することで、より安定した定員充足環境へとつなげることができる。

②-5 定員を充足する見込み (定員充足の根拠となる客観的なデータの概要)

ア. 高校生アンケート

本学子ども学部子ども心理学科及び教育学科への入学意向を把握するために、近隣に所在する本学への入学実績のある高等学校を中心に、1 都 2 県(東京都、埼玉県、山梨県)に所在する高等学校の在学者で令和 6 年度進学対象者である高校 2 年生を対象に、第三者機関である「株式会社進研アド」を介してアンケートを実施した。調査は令和 4 年 9 月から同年 10 月の期間で行った。調査方法は近隣に所在する本学への入学実績のある高等学校中心に 39 校に対し、アンケート用紙と白梅学園大学子ども学部子ども心理学科、教育学科のリーフレットを調査機関から送付し、対象者が在学の高等学校内で直接アンケートを記入する高校留め置き調査にて実施した。回答したアンケート用紙は高等学校から直接調査機関へ返送してもらい、集計も調査機関が実施している。その結果、36 校、4,299 人から有効回答(有効回答率 77.1%)を得た。

以下調査機関作成の結果報告書【資料9】に基づき主な質問項目と結果について記載 する。

- ●白梅学園大学子ども学部の特色に対する魅力度**
- (※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した割合の合計値)
 - ・白梅学園大学 「子ども学部」の特色に対する魅力度は、全ての項目で6割を超える。
 - ・子ども心理学科の特色のうち魅力度がより高いのは、「A. 赤ちゃんから大人までの生涯発達について理解を深め、発達における困難や心理的困難を抱える人々をサポートできる専門性を身につけられる。」(67.7%)である。

「B. 心理学を基本としながら、幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得を目指し、現代の保育・幼児教育に必要な子どもと家族への心理的援助を学ぶことができる。」は 67.5% である。

・教育学科の特色で最も魅力度が高いのは、「E. 現代の学校教育における様々な 課題の解決に向けた知識と一人ひとりの子どもが自己実現を図ることのできる学 習・生徒指導方法を学び、地域と学校で連携・協働し、社会全体で子どもを支援 し育むための知識と技術を学べる。」(66.5%)である。 ・次に魅力度が高いのは、「C. 子どもの成長・発達や子どもを取り巻く環境、多様化した学校教育の課題について理解を深め、小学校教育・特別支援教育・中学校教育における子どもの豊かな学びを実現するために必要な資質・能力を育成するための専門性を学べる学科である。」(66.3%)、さらに「D. 学校教員を目指し、1年生より学校インターンシップで学校現場について学び、教育に関する思想や制度、各教科の専門的知識や指導法、子ども理解のための方法論、子どもや教育をめぐる問題の理解と、その解決方法を学べる。」(64.8%)と続く。

●白梅学園大学「子ども学部」への受験意向・入学意向

- ・白梅学園大学「子ども学部」を「受験したいと思う」と答えた人は、11.0% (4,299人中、473人)である。
- ・白梅学園大学「子ども学部」を「受験したいと思う」と答えた473人のうち、白梅学園大学「子ども学部」の「子ども心理学科に入学したい」と回答した人は、51.2%(242人)、「教育学科に入学したい」と回答した人は、35.7%(169人)である。

●白梅学園大学「子ども学部 子ども心理学科」への入学意向者数

※白梅学園大学「子ども学部」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「子ども心理学科に入学したい」と回答した人を白梅学園大学「子ども学部 子ども心理学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における「子ども学部 子ども心理学科」への入学意向は 5.6% <u>(242</u> <u>人)</u>で、予定している入学定員数 40 人を大きく上回る入学意向者がみられた。 ◇高校卒業後の希望進路別
- ・白梅学園大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている 回答者の入学意向は5.7% (2,988人中、169人) と、予定している入学定員数を 4倍以上上回る入学意向者がみられた。「国公立大学に進学」を考えている回答 者の入学意向は5.3% (1,207人中、64人) と、予定している入学定員数を上回る 入学意向者がみられた。

◇白梅学園大学「子ども学部」の特色に対する魅力度別

- ・白梅学園大学「子ども学部子ども心理学科」の特色に魅力を感じている回答者 の入学意向は、いずれの特色も8.1%であり、入学意向者数はすべて、予定して いる入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。
- ●さらに精緻な条件下での、白梅学園大学<u>「子ども学部子ども心理学科」への</u> 入学意向者数

※入学意向者の条件をさらに精緻に設定して、Q1で「私立大学に進学」と回答

し、かつ、Q2で「児童学・保育学」「心理学」のいずれかに興味があると回答 した、白梅学園大学「子ども学部 子ども心理学科」の入学意向者について分析 する。

・回答者全体における精緻な条件下での入学意向は14.5% (961 人中、139 人)で、 予定している入学定員数を3 倍以上上回る入学意向者がみられた。ターゲット の条件をより精緻に限定した場合でも、予定している入学定員数を3 倍以上上 回る入学意向者がみられた。

●白梅学園大学「子ども学部 教育学科」への入学意向者数

- ※ここからは、白梅学園大学「子ども学部」に対して、Q4で「受験したいと思う」 と回答し、かつ、Q5で「教育学科に入学したい」と回答した人を白梅学園大学 「子ども学部教育学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。
- ・回答者全体における「子ども学部 教育学科」への入学意向は 3.9% (169 人) で、 予定している入学定員数 50 人を 3 倍以上上回る入学意向者がみられた。
- ●さらに精緻な条件下での白梅学園大学<u>「子ども学部教育学科」への入学意向者数</u>
 ※入学意向者の条件をさらに精緻に設定して、Q1で「私立大学に進学」と回答し、
 かつ、Q2で「教員養成・教育学」に興味があると回答した、白梅学園大学「子
 ども学部教育学科」の入学意向者について分析する。
- ・回答者全体における精緻な条件下での入学意向は 17.4% (466 人中、<u>81 人</u>) で、 予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。ターゲットの条件をより精緻に限定した場合でも、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

上記結果より、さらに精緻に学生数を見込むため過去5カ年(2018年~2022年度)入学試験結果子ども学部の歩留まり率(入学者÷合格者)平均62.5%と、上記の精緻な条件下での入学意向数に歩留まり率をかけた場合、子ども心理学科は約87人、教育学科は約51人となり調査結果からも。入学定員子ども心理学科40名、教育学科50名の充足は十分見込めると判断している。

②-6 定員を充足する見込み(他大の志願状況)

本学の主たる学生募集エリアである東京都及び埼玉県において、本学と併願の多い子ども・心理系統または教育系統の学部・学科を設置している主な大学の2022年度入試及び入学定員充足状況を調査した。

定員充足率はほとんどの学部・学科で 1.0 倍を超えており、十分に学生の確保が見込める【表 3 】。

【表3】近隣心理系、教育系 2022 年度入試定員充足率

こども・心理系	Ŕ	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	入学定員充足
東京家政大学	子ども学部子ども支援学科	120	216	165	119	1.31	0.99
昭和女子大学	人間社会学部心理学科	100	814	303	117	2.69	1.17
明治学院大学	心理学部教育発達学科	145	894	340	145	2.63	1.00
		365	1,924	808	381	2.38	1.04
教育系		入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	入学定員充足
明星大学	教育学部	350	3,770	1,275	382	2.96	1.09
武蔵野大学	教育学部教育学科	120	2,212	559	110	3.96	0.92
東京家政大学	家政学部児童教育学科	85	362	149	95	2.43	1.12
	_	555	6344	1,983	587	3.20	1.06

各大学ホームページより作成

③学生確保に向けた具体的な取り組み状況

ア. 学生確保に向けた具体的な取組状況(予定を含む。)及びその効果、反応等

本学では、学長の下に入試制度部長が置き、入試制度部長主管の組織として、入試制度部が設置されている。入試制度部では、入試ならびに学生募集に関する方針や戦略が決定され、入試実施及び募集活動に取組んでいる。

また、事務組織として入学センターを設置し、入試実施に向けた計画案の作成、学生 募集に関する諸活動を行っている。

具体的には主に次の取組等を実施・計画している。

(ア) オープンキャンパス

年間を通してオープンキャンパスを実施しており、例年 1,500 人以上の参加がある。オープンキャンパスでは教員による学部・学科紹介、模擬授業、面接対策講座、個別相談を行っている。また、職員が入試制度説明、奨学金制度、キャリア支援の説明を、さらに卒業生による講話、予備校講師を招き過去問題の解説を行うなど、さまざまな来場者ニーズに合わせた対応をしている。特に学生によるキャンパスツアーや個別相談、子育て広場の活動紹介など、学生目線で本学の魅力を直接受験生に伝える企画が高評価で学生確保に寄与している。2023 年度は、例年 6 月以降の実施としているところを、4 月より開催し、実施回数を増やして学生確保へ向けた取り組みを強化する。

(イ) 高校訪問等、高等学校への説明

入学センターの職員が中心となって定期的に東京都、埼玉県、山梨県、神奈川県の 受験実績のある高校を訪問し、進路指導担当教諭等と面談している。入試結果、在学 生、卒業生の状況を報告し、最新の受験動向、ニーズ等のヒアリングを行っている。 その効果もあって、例年、高校訪問を実施している高校の多くから受験・入学実績が ある。 また、例年、進学実績の多い地域の高校教諭を対象とした進学説明会を学外(新宿、立川)で実施している。2023年度は川越会場を追加し実施予定である。

(ウ) 進学相談会、高校内開催のガイダンス等

入試情報提供業者が主催する進学相談会や、高等学校内で開催される進路指導ガイダンス、教員を派遣しての模擬授業など例年 200 回程度参加している。特に参加を強化しているのは高校低学年向けの企画で、本学が展開する学問系統、分野説明、職業理解を目的とした進路講演会を丁寧に行っている。その効果もあって、例年、分野希望者の掘り起こしや第一志望層の獲得につながっている。

また、併設する高校への独自企画として、例年、大学説明会、学長講演会、模擬授業、施設見学会を実施している。

(エ) ウェブサイトによる広報

受験生サイトを公開しているほか、メールマガジンや SNS で情報を発信している。 大学のホームページでは、新学部・学科の設置構想に関するページを作成し、教育内 容等を紹介している。例年、出願時のアンケート結果では志望校選択時のツールとし て志願者より高い評価を得ている。

(オ) パンフレット等による広報

新学部・学科(設置構想中)については、リーフレットを作成し、高校訪問やオープンキャンパス、資料請求者への一斉発送などを通じて広く周知に努めている。今後は、学科設置申請手続きの進捗に合わせ、大学案内(総合版)の発行、ダイレクトメールの発送などを計画している。

(2) 人材需要動向等社会の要請

令和5年4月こども家庭庁の発足が象徴するように、子どもをめぐる環境の諸課題は 社会的にも関心、重要度が高い。こども家庭庁の設置趣旨の中に「こどもの支援に携わろ うとする人材が安心してキャリアパスを描けるような安定した雇用環境を整備するとと もに、教育・心理・福祉といった様々な専門分野の人材の確保、専門性の向上を図る必要 がある。」(こども政策の推進に係る有識者会議報告書:令和3年11月29日)とされ、専 門性の高い人材を確保することが急務となっている。中でも「様々な困難を多重に抱え、 また、精神疾患や発達障害など特段の配慮をする必要がある場合、乳幼児期や学童期の課 題がその後の困難につながるケースが多い。」(こども政策の推進に係る有識者会議報告 書:令和3年11月29日)とあることから、子どもの発達や障害理解と対応、子どもや養 育者の心理に専門性の高い人材への社会的なニーズが高いと考えられる。

ア. 子ども心理学科

①人材養成に関する目的

教育目標として、心理学の知見を基礎として、乳幼児期から成人期に至る長い期間の発達について理解を深め、そこで生じる諸課題への心理的教育的アプローチの仕方を学び、心理的援助を必要とする人々や発達において困難を抱えた人々を理解し、支援できる専門性を身につけた保育者・幼児教育者養成のための教育を行うものである。この目的実現のために、子ども心理学科では学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)として、以下の3つを掲げる。

- 1) 生涯にわたる人間の心理発達について理解し、確かな知識を身につける。
- 2)発達をめぐる課題に対し、心理学の知見に基づく自己の考えを持ち、それを表現することができる。
- 3) 心理学的な知見を踏まえた支援の能力を身につけ、子どもに関わる全ての人々との協働において主体性を発揮できる。

②人材需要動向

2013 (平成 25) 年度から始まった「待機児童解消加速化プラン」、2018 (平成 30) 年 度からの「子育て安心プラン」により、子育て支援が充実したことに伴い、保育所等で 働く保育士の数は年々増加している。少子化傾向ではあるが、特に首都圏では、就労す る家庭が増加しており、今後も保育所の利用が高い傾向にある【資料 10】。現在東京都、 埼玉県では求人倍率が 3 倍以上と他の業種及び、他の都道府県より高い求人倍率であ る傾向があり、保育士、幼児教育に関し高い求人傾向は続く見込みである【資料 11】。 現代の社会においては、社会経済的背景や価値観の多様化によって子どもの生育環 境も様々であり、発達上の課題を持った子ども、そしてその保護者は今後ますます増え てくると考えられる。特に、多様な社会的・生活背景をもつ子どもが増加している。一 例として少子化の中で、一人親家庭の世帯数は横ばいと推移している。親の離婚を経験 している子どもたちは毎年20万人前後で推移してきている。それは、乳幼児期に親の 離婚を経験する子どもが一定数いることを示している【資料 12】【資料 13】。「未成年期 に父母の離婚を経験した子の養育に関する実態についての調査(法務省:令和3年1月 報告)」によれば、別居開始が3~6歳時と幼児期に一人での養育を開始していることが 判明し、未就学時だった子どもの約3割が「離婚は自分のせい」と認識しており、子ど もとともに保護者の子育て支援や心理的な支援も必要と言える。

また多様な生活背景の例として、「外国籍等の子どもへの保育に関する調査研究(厚生労働省:令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)」によれば、外国籍等の子どもを受け入れている保育所等は 68.6%となり生活文化が異なる子どもと保護者へ言語的なサポートとは別に子育て支援が必要であり、心理の理解や配慮が必要であると考えられる【資料14】。

保育現場おいても、発達支援利用者及び保育所への訪問相談件数は増加傾向にあり、 発達支援や心理的な理解と支援が不可欠である。そのため子どもの心理及び発達支援、 インクルーシブ保育など多様な子どもの育ちを理解した人材が必要である【資料 15】 【資料 16】【資料 17】。

また児童虐待防止対策の強化を図るための児童福祉法等の一部(令和元年法律第 46 号)が改正され、全国で児童相談所の体制強化が図られている。東京都では特別区をはじめ、児童相談所が増設、新開設されており、児童福祉司(保育士資格)、一時保護所職員(保育士資格)、児童福祉司、児童心理司など、採用がされる職種が多くなっている。その際に保育の学びと、子ども心理学科の授業で展開される心理の学びの両方を備えていることは、社会的および地域的な需要を鑑みても、非常に意味のあることと言える。

イ. 教育学科

①人材養成に関する目的

教育目標として、子どもの成長・発達や子どもを取り巻く環境、多様化した学校教育の課題について理解を深め、初等教育・中等教育・特別支援教育における子どもの豊かな学びを実現するために必要な資質・能力を育成するための専門的な教育を行うものである。この目的実現のために、教育学科では学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)として、以下の3つを掲げる。

- 1)学校教育における学習指導や生徒指導などについて、確かな知識と技術を習得している。
- 2)子どもの心理や多様なニーズに配慮しながら成長や発達を援助することに対して、教育学の知見に基づく自己の考えを持ち、それを表現し、行動することができる。
- 3) 学校教員としての使命と倫理を深く自覚し、教員に求められる資質・能力や職務内容 に関する知識、さらには学校教育の理念、制度、運営に関する能力を身につけ、主体的 かつ協働的な行動をもって社会に還元することができる。

学校教育、とりわけ義務教育諸学校において目指されるべきは、生涯にわたって学習の基盤となる基礎的な知識や技能の習得を始め、様々な問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を育てることにある。この目的実現のために、教員養成においては教育内容と方法等に関わる基礎的・応用的な知識や技能の習熟とともに、一人ひとりの児童生徒の人格や個性を最大限に尊重しながら、社会的な資質や能力を高めるための指導力を身につけることが必要となってくる。さらに、学校教育において対応すべき課題の多様化とともに、個々の子どものニーズや特性を的確にとらえ、援助するために必要な教育学的知見や指導技術、実践力を身につけることも必須となる。

以上を教育学科の教育目的の柱としながら、教育の実践家として、日々、研鑽に励みつつ、学校教員に必要とされる使命や職業倫理を深く自覚し、学校運営や地域協働にも積極的に関与することのできる専門性を持った職業人の育成を目指す。

②人材需要動向

「文部科学白書」によると、少子化により児童数は減少傾向にあるのに対して、小学校教員数は増加傾向にある。近年、情報化、グローバル化の進展、地域コミュニティの弱体化や核家族化の進行等、児童生徒を取り巻く社会の状況が様々に変化する中、児童生徒に関する課題が多様化、複雑化してきている。このような状況の中、教育の個別最適化が求められ、教員数の確保は社会的要請となっている。しかし、教員採用試験倍率は低下傾向にあり、東京都の令和5年度公立学校教員採用候補者選考の小学校全科受験倍率は1.41倍、埼玉県の令和5年度公立学校教員採用候補者選考の小学校教員倍率は1.82倍になった【表4】。東京都教育委員会は令和6年度採用試験から教員採用候補者選考の日程を変更する等、教員候補者の獲得に意欲的である。今後は定年退職者数の減少もあるが、教員の採用数は現状数一定数維持がされると思われる【資料18】。

【表4】 東京都·埼玉県教員採用試験結果(3カ年)

東京都	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	小学校全科	特別支援	小学校全科	特別支援	小学校全科	特別支援			
受験者数	3,053	610	2,725	540	2,555	499			
名簿登載者	1,546	197	1,164	193	1,767	355			
受験倍率	1.97	3.10	2.34	2.80	1.45	1.41			
埼玉県	令和3年度			令和 4 年度			令和5年度		
	小学校	中学(国語)	特別支援	小学校	中学(国語)	特別支援	小学校	中学(国語)	特別支援
受験者数	1,872	248	478	1,715	236	450	1,547	232	388
最終合格者	744	65	170	801	66	193	850	67	205
倍率	2.52	3.82	2.81	2.14	3.58	2.33	1.82	3.46	1.89

※東京都・埼玉県教育委員会ホームページより結果数値を引用し作成

また、児童が中学校進学時に不登校やいじめ等の問題を抱える「中1ギャップ」と呼ばれる不適応も、見過ごすことができない課題であり、小学校教育のみならず中学校教育の知識を有し、学校間連携を推し進めることのできる人材育成が求められている。さらに、子どもが減少傾向の中で特別支援学級の児童生徒数・学級数及び通級による指導を受けている児童生徒数の推移は増加傾向にあり、特別支援学校教員のニーズはもちろんのこと、通常学級の中で障害の特性等に対する理解と指導方法等の知識が求められている【資料19】【資料20】。このような社会情勢の中、質の高い小学校教員、中学校教員、特別支援教員を目指す学生の育成することは社会的需要が高いといえる。